橋本高等学校

実施日時	令和５年１１月６日（月）　３限、４限
参加者	生徒 192名、教職員 14 名　計２０６名
実施内容	ＡＥＤ・心肺蘇生法、止血法、簡易搬送法、消火活動

ねらい

本校では防災意識の向上と地域防災の担い手として自助・共助・協働の精神に基づき社会貢献できる人材の育成のため、毎年１年生を対象として防災スクールを実施している。今年度は自衛隊・消防士・橋本市危機管理室の方々に来ていただき、３限目と４限目に自衛隊・消防士の担当者から防災スクールとしてレクチャーを受けた。昼休憩後、５限目に全校生徒（古佐田丘中学校生徒１２１名を含む）を対象としたパネルディスカッションを橋本市危機管理室の担当者がコーディネーターとなり実施した。パネラーは自衛隊・消防士・本校生徒２名・本校職員。その後６限目に全校生徒で避難訓練を行った。特に１年生は防災スクールで学んだことを実践し、主体的な参加型の訓練となった。

防災スクールの実施内容については、本校が地域の避難場所になっていることや阪神淡路大震災・東日本大震災の教訓から、自衛隊・消防士の方々の指導の下、ＡＥＤ・心肺蘇生法、止血法、担架搬送法、消火活動を行った。今年度もアルファ化米の炊き出し、配膳については実施せず、１人１袋を配布し家庭で実施することとした。

主なプログラム

１、ＡＥＤ・心肺蘇生法

２、止血法

３、担架搬送法

４、消火活動

概要

各クラスを４班に分け、体育館ではＡＥＤ・心肺蘇生法、止血法、担架搬送法を、生徒ホール前では消火活動を各班ローテーションして行った。（各２５分程度）

すべての行程終了後、感想文を書かせた。

参加者感想文抜粋

・ＡＥＤの使用法が学べて良かった。また、思った以上に心肺蘇生法には力が必要だと感じました。

・身近な毛布をうまく使うことで人を搬送することができ、参考になった。

・止血法を学び、いざというときに役に立つことができると感じた。止血するための強度も肌で感じることができ有意義であった。

・今まで使用したこともなかった消火器の使い方を知り、参考になることばかりだった。

・改めて自分の命をしっかり守り、その上で他者の手助けができればと思いました。

成果と課題

【成果】

生徒たちはみんなで協力しながら各講習に取り組んでいた。多くの生徒が災害時に活かせる良い体験ができたと感想文に書いており、今後万が一災害が起こった時に地域の方々を助け支えることのできる若者になってくれると感じている。

【課題】

今年度は保護者の方々も数名見学に来られていたが、地域の方々と合同で取り組む段階には及ばず、今後の課題である。アルファ化米の調理についても再開したい。

各講習の様子

紀北工業高等学校

実施日時	令和５年１１月１日（水）	令和５年１１月２日（木）
参加者	生徒 395 名、教職員５０名　　計４45 名	
実施内容	地震体験車 11/1	防災避難訓練 11/2

ねらい

１、生徒及び教職員の防災意識の向上をはかると共に、災害発生時の基本的行動を学習する。

２、避難行動をする上での課題等を発見する。

主なプログラム

１、通報訓練

２、シェイクアウト訓練

３、避難訓練

４、橋本市消防本部による講話

概要

１、橋本市消防本部と連携し、訓練用緊急地震速報にあわせ、シェイクアウト訓練とその後校内で火災発生の想定の下全校生徒がグラウンドへ避難する訓練を行う。

成果と課題

【成果】

① 地震発生時の安全確保の方法を確認できた。

② 地震発生時の避難や火災発生時の消防署への通報方法等を確認できた。

③ 本校内の消防用設備の基本操作方法を確認できた。

④ 「地震発生→火災発生→避難行動」の順で、避難経路の確認および命を守れる行動の確認ができた。

【課題】

一人ひとりの役割をしっかり認識し、当事者意識をもって訓練を行う。

生徒の感想

・訓練を通じて、防災意識が高まりました。

・「避難経路の確認」ができました。

【避難後点呼結果を報告】

【ごりょう君　地震体験車で体験】

紀北農芸高等学校

実施日時	２０２３年　１２月　２１日（木）
参加者	生徒６３名、教職員１８名　　計８１名
実施内容	救命救急講習、α化米炊き出し訓練、災害避難ゲーム

ねらい

有事（地震・火災等）に備え、地域住民と連携し、防災知識・技術を高めることを目的とする。

主なプログラム

1　救命救急講習

2　α化米炊き出し訓練

3　災害避難ゲーム

概要

1　自助・共助・公助の観点から、大地震が発生した際の備えや命を守るための行動について学んだ。また、炊き出し体験を通して、被災した際の自身の行動について考察した。

2　今年度は、伊都消防組合に依頼し、救命救急講習をしていただいた。以前は地域住民を招待して開催していたが、コロナウイルスの流行を受け、令和２年以来地域住民なしで開催してきた。今年度は地域住民に参加を依頼をしたが、諸事情により参加はかなわなかった。

参加者感想文

・救命救急講習

（1 年女子）人命を救うということの重大さを知ることができました。私も何かあれば人命を救おうと思います。AED の大事なこと３つも覚えることができました。「強く速く絶え間なく」このことを身につけます。

（1 年女子）AED はすごく大事なことだと思いました。やり方を覚えてもしもの時に備えれたらいいと思います。

（1 年女子）心臓マッサージをするときに乾電池１個分ぐらい押すことが分かった。自分は少し骨を折ってしまったら怖いと思っていたんですが、消防士の方が、力を入れていないのは、優しさじゃないと言っていたので、もしやる機会があれば強めにしたいです。

・α化米炊き出し訓練

（1年女子）保存食が大切でおいしいということが分かった。災害時に大切だということが分かった。

（1年女子）思っていたよりおいしかったので、保存食として置いといて、災害の時にもっていきたいと思います。

（1年女子）普通の食事で食べると考えるとそこまでおいしくはなかったけれど、災害の時に食べるものがこれしかないと考えると、とてもおいしく感じました。ほかの味も食べてみたかったです。

（1年男子）できるまで結構時間がかかるんだと思った。思っていたよりもおいしくて災害時には最適だと思う。

（１年女子）災害にあって、何日間もご飯を食べられなくなった時、これを食べたらおいしくて元気が出ると思う。

（１年男子）いろいろなバリエーションで子供にも食べやすいと思った。今日はわかめ味を食べましたが、他の種類も食べてみたいです。また家にも準備しておいたほうがいいと思うので、売っているところを教えてほしいです。

・災害避難ゲーム

（１年女子）自分の行動一つで今後どうなっていくのか変わっていくのが、すごく選択する責任重大だなと思った。

（１年女子）災害の時に持ってると必要なものがカードを見て分かった。災害グッズをカードで思い出して備えたいです。

（１年女子）避難するときに必要なものや準備について知ることができた。津波が来るスピードは意外と早いなと実感した。

（１年男子）災害前の家具やおちるものの固定や避難用グッズの用意や避難場所、それまでの経路などの自分たちができるくらいの事前準備の大切さ、重要さを知ることができてよかったです。

（１年女子）地震はいつ来るかわからないので今からでもまだ間に合うので避難場所やもっていくものなどの準備をしておこうと思いました。

（１年女子）事前準備がある場合とない場合の２回を通して、どれだけ事前準備が大切なのかがよくゲームを通してわかりました。

（１年男子）いつ災害が来るかわからないから災害が来る前に非常食や水を用意したほうがいいと思いました。災害が起きて家から出るときには、ブレーカーを落とさないと家が燃えることを初めて知りました。

成果と課題

【成果】

今回の防災スクールで学んだことを生かして、地震に直面した時どのように行動しますかという質問に対して、「倒れている人がいたら助けたい」「困っている人がいたら、逃げる際に助けて避難場所へ逃げる」「自分の命も大事だが、事前に避難経路などを確認して家族とともに避難する」と感想に書いた生徒

もおり、「自助」「共助」の大切さを学んだ生徒もみられた。なにより、自分の命とともに、他の人の命も大切にしたいという考えがよく見られた。また、いざ被災した際に、家族とともに助かるために避難経路や避難場所の確認などの事前準備や話し合いが大切であると気づいた生徒も多く見られた。

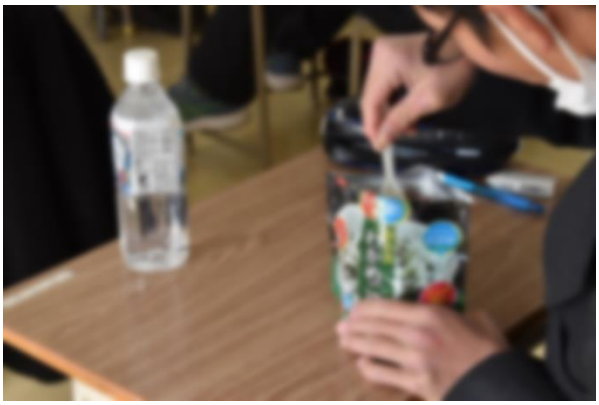
【課題】

昨年度までは、コロナウイルスの感染対策のため、地域住民の参加は控えていただいていたが、今年度より、地域の方々と連携し防災スクールを実施することとなった。しかし、4 年ぶりであるということ、地域住民の高齢化が進んでいることなど、様々な要因で参加をご辞退されることとなり、今年度も本校生徒と職員のみでの実施となった。とはいえ、実際に災害が発生し、本校が避難所となった場合には、地域の方が来校することも想定される。1 月には能登半島で震度 7 の地震が発生しており、多くの方が被災されている状況を考えると、本校でも、災害時には地域の方々の協力は不可欠であるといえる。防災スクールが昨年 12 月の実施であったため、震災を身近なものとして捉えることができなかったが、能登半島の震災後であれば、生徒もより学ぶことも多くなったのではないかと思う。

救命救急講習

災害避難ゲーム

α化米炊き出し訓練



笠田高等学校

実施日時	令和５年 11 月１日（水）10：30～12：10
参加者	生徒２学年 157 名、教職員１２名　　計169 名
実施内容	防災講話、心肺蘇生法、担架搬送法、止血法、ロープワーク

ねらい

１　防災意識を高め、自助・共助の精神を涵養し、自分の命を守り、地域防災のリーダーとなる生徒を育成する。

２　実践的な訓練を実施し、災害避難時に役立つ技術を習得する。

主なプログラム

１　防災講話

２　心肺蘇生法

３　担架搬送法

４　止血法

５　ロープワーク

概要

自衛隊和歌山地方協力本部の指導のもと以下の内容を実施。

１　防災講話

「自分たちができる身近な防災」

２　心肺蘇生法

看護師資格者による心肺蘇生の概要及び実施要領の展示・実習。

（AED・心臓マッサージ）

３　担架搬送法

毛布及び約２mの棒を２本使用し、応急担架の展示・説明及び実習。

４　止血法

止血及び骨折時における処置要領の説明及び実習。

５　ロープワーク

約１ｍ～２ｍのロープのもやい結び等の説明及び実習。

参加者感想文

・地震が起きたときに備えて、今回の訓練は役に立つと思います。救助されるだけでなく他の人も救えて、とてもよいと思いました。

・ 将来、看護・医療の道に進もうと考えています。同じ人の命を救うことでも様々な形があることがわかりました。

・いざという時に、自分も誰かの役に立つことができるようになりたいとおもいました。

・実際に災害が起こった時の行動について家族で相談していなかったので、しようと思いました。

成果と課題

【成果】

昨年度に引き続き防災スクールを２学年の生徒のみであるが実施できたことが成果。また、参加した生徒は前向きに、真剣に取り組んでいる姿に頼もしさも感じた。

【課題】

地域住民の方々や近隣の小中学校からも参加していただき、地域全体の防災や共助の意識を高めるまでに至っていない点が課題である。

粉河高等学校

実施日時	令和６年１月３１日（水）
参加者	生徒２２６名、教職員１６名　計 242 名
実施内容	マイトイレ作り、防災ハンドブックでの学習 避難経路・避難場所・ハザードマップ確認、アルファ米の配布

ねらい

１　日頃の備えや訓練の大切さを学ぶ。
２　災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

１　マイトイレ作り
２　防災ハンドブックによる学習
３　市町村 HP を用いた避難場所調べ
４　ハザードマップの確認
５　パワーポイントによる学習
６　水・アルファ米の配布と説明
７　振り返り

概要

１　新聞紙を使ってマイトイレの作り方を学び、災害時のトイレの重要さを知る。
２　防災ハンドブックを見ながら、防災学習をする。特に「災害時自宅にいた場合の注意点」「外出先にいた場合の注意点」「家族で事前に話し合っておくこと」などを中心に学習する。

３　市町村 HP にある災害時避難場所一覧から自身がどこに避難するのかを確認する。
４　「ハザードマップポータルサイト」で自身の生活圏内がどの災害時に危険なのか確認する。

５　パワーポイントを用いて、能登半島地震の概要や南海トラフ地震の被害予想を確認し、非常持ち出し袋の中身や避難に必要なものを確認する。
６　アルファ米と水を配布し、本日の感想文を書く。

参加者感想文

・新聞紙を２枚使うだけで、災害時に役立つトイレになることを知ったので、新聞紙が余っていたら災害のためにマイトイレを作っておいたほうがいいと思った。また家族にも教えようと思う。

・地震が来たとき自分がどこにいるか分からないので、出かけるときはきちんと家族に言って出かけようと思った。スマホなども使えなくなったら連絡が取れないので集合場所などを決めておこうと思った。

・もし地震が来たらかなり焦ると思うのでしっかり１つのカバンにまとめておこうと思いました。思ったより必要なものが多くて驚きました。

・この授業で様々な知識を得たので、いざというときに覚えておこうと思った。災害はいつ来るかわからないのでいつ来てもいいように対策しておこうと思いました。

・最近大きな地震もあって、危機感も高まっていたから、重要なことを再確認することができた。何よりも大事なことは自分の命を守ることだと強く心に留めておく。

成果と課題

【成果】

いつ大きな災害が起きてもおかしくなく、その際は自分や家族の身を守ることはもちろん、地域の一員として率先して行動しなければならないという意識付けができた。

また、生徒は積極的に活動し、知識や経験を積むことができた。

ハザードマップの確認は今年度初めての試みだったが、生徒からの反応も良く、災害の種類によって危険な場所が変わってくることが伝えられた。

【課題】

今年度は体育館が使えず、パーテーション作りや全員での活動が行えなかったので、広い場所がなくても学べる工夫がさらにできればよかった。

那賀高等学校

実施日時	令和６年１月１９日（金）
参加者	生徒２７９名、教職員１８名　計２９７名
実施内容	防災講話、止血法、担架搬送法、ロープワーク、救急救命講習他

ねらい

１　令和６年能登半島地震発生後、すぐの実施となり、さらなる防災意識の高揚を図ることをねらいとした。

主なプログラム

１　防災講話
２　止血法
３　担架搬送法
４　ロープワーク
５　水の採取・救難信号
６　救急救命講習
７　避難所運営ゲーム

概要

１　午後から４０分間は、全体で防災講話。
２　主なプログラムの２～５を各２０分実施。
３　主なプログラムの６、７は各１００分実施。
各プログラムは、岩出市役所、自衛隊、那賀消防組合中消防署の協力で行われた。

参加者感想文

・どの実技も役に立つものばかりで良い勉強になった。
・消防署の方に能登半島地震の被災地の様子を聞き、改めて災害に備えなければならないと思った。
・避難所運営では、的確で素早い判断力が求められると知った。

成果と課題

【成果】
・能登半島地震直後で、意識の高いタイミングでできたこと。熱心に各講座を受講できたこと。
【課題】
・各講座の時間配分とグループ分けの検討。
・アルファ米の活用。

貴志川高等学校

実施日時	令和５年　１１月　２日（木）
参加者	生徒２３２名、教職員３７名、協力団体等３６名　計３０５名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難訓練、防災ゲーム、AED使用法、止血法 車いす避難サポーター養成講座、ロープワーク、自衛隊車両展示　等

ねらい

１．近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。

２．関係機関や地域の協力、連携のもと、防災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得することを目的とする。

主なプログラム

１,２年生　災害避難ゲーム、AED、止血法
　　ロープワーク、自衛隊車両展示
３年生　車いす避難サポーター養成講座
　　AED講習
全体　シェイクアウト訓練、避難訓練

概要

〇１,２年生・・災害避難ゲームを実施。１年生は、地震・津波災害時に、避難場所までたどり着くまでの課題を体験し事前の備えを学ぶことができるゲーム、２年生は、みんなで協力して避難所を運営するゲームをそれぞれグループで行った。また、自衛隊実施の各プログラムも体験し、災害等が起きた際の身を守るための知識、行動を学んだ。

〇３年生・・車いす避難サポーター養成講座を受講。災害時に避難経路上に想定される障害物、コースを体育館に設定し、要配慮者等を安全に避難場所に移動支援する体験をした。

〇紀伊半島に震度７の南海トラフ地震が発生したと想定。教室内にいる生徒は、安全確保のために机の下にもぐり、身を守るシェイクアウト訓練を実施した。その後、生徒ホールからの出火に伴い、全校生徒が各教室から各避難経路を利用し、グラウンドに避難する訓練を実施した。

参加者アンケート

・いつ災害が起こるか分からないので、防災バッグの準備や避難経路の確認を家族としようと思う。

・防災ゲームにおいて友達と話し合いながら避難時にどうすればよいか考えることができ、ためになった。

・避難訓練の際は落ち着いて、慌てず行動するように気をつけた。

成果と課題

【成果】昨年と同様に各外部団体の協力を得て防災スクールを実施することができた。生徒は各団体の方と交流し、各プログラムに積極的に取り組むことができた。また、事後アンケートの結果、９０％以上の生徒は防災に対する知識や理解を深めることができたと回答した。

【課題】地震や災害はいつ起こるかわからない。常にそれらが発生したことを想定し、どう対応すべきかを訓練しておく必要がある。引き続き、防災に対する意識及び知識を高めるために、防災スクールを実施していくことが必要である。

①防災ゲームの様子
②③車いす避難サポーター養成講座の様子
④AED・心肺蘇生法体験の様子
⑤避難訓練の様子

①

②

③

④

⑤

和歌山北高等学校北校舎

実施日時	令和５年１１月２日（木）・１１月１６日（木）
参加者	生徒８７９名、教職員６０名　計９３９名
実施内容	シェイクアウト訓練、地震と津波についての学習、校内外避難経路確認等

ねらい

１　災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。

２　災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。

３　自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

４　実際に災害が発生した際、安全に避難できるように避難の方法に慣れておく。

主なプログラム

１　シェイクアウト・校内避難訓練

２　防災についての学習

３　校外避難訓練

概要

１　令和５年１１月２日（木）２限
全校生徒８７９名　職員６０名
場所（各クラス）

・事前にシェイクアウト訓練の内容について周知するとともに世界津波の日リーフレットの説明を行う。また、校内避難経路及び校外避難経路の再確認を行った。

・１０時の校内緊急放送により直ちにシェイクアウト訓練を開始した。一分間その場で先ず低く、頭を守り、動かない行動を行った。

・シェイクアウトと訓練後、各クラス避難経路を確認しながらグラウンドに集合・点呼を行った。

２　令和５年１１月１６日（木）５・６限
１年生８クラス３２０名　職員１８名
場所（体育館）

・防災ハンドブックを使用し防災に関する情報を伝達した。

・アルファ化米と飲料水を配布し非常用保存食の必要性の説明を行った。

３　令和５年１１月１６日（木）５・６限
１年生８クラス３２０名　職員１８名

・事前に校外避難経路の確認として、学校より避難先である平井中央公園までの約１２００ｍの避難経路をビデオ撮影したものを視聴し、その説明を行う。

・南海トラフ巨大地震等が発生した場合の、津波からの避難場所として、第１目標として指定されている平井中央公園までクラスごとに徒歩による避難訓練を行った。

参加者感想文

・校内の避難経路がクラス別に分かれていてスムーズにグラウンドに集合ができて良かった。

・避難経路を確認できて良かった。

・先ずは自分を守る方法を身につけ、これからは被災者の救助やサポートなどができるようになりたいです。

・稲むらの火についても学習でき、いかに迅速な行動が必要であるかが分かった。

・万が一の時は家族で決めた避難場所で会うことができるように、家に帰って家族と話し合い、家族全員で生き残り、犠牲者ゼロを実現したいです。

・地震のメカニズムや防災に関することをしっかり学び、実際起こったときに自分がどのように行動すべきかをイメージしておく必要があると感じた。

・校外避難経路は実際の経路の映像を見ながら説明を聞いたので、ある程度のイメージができた。しかし、地域住民も一斉に避難することもイメージすることも必要と感じた。

成果と課題

【成果】

近い将来発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とし、地震や津波についての理解、防災の大切さについて学習が深まった。また、避難経路についても確認することができた。

【課題】

地域の自治会や公民館と協力して合同防災訓練も検討していきたい。また、近隣の小学校と連携して避難訓練も実施できればと考えている。

和歌山北高等学校西校舎

実施日時	① 令和５年　６月１４日（水） ② 令和５年　７月１３日（木） ③ 令和５年１１月　７日（火） ④ 令和６年　１月２５日（木） ⑤ 令和６年　１月中に各クラスで実施
参加者	生徒２７７名、教職員３１名、　延べ計９７０名
実施内容	下記に記載のとおり

ねらい

１　火災や地震の非常時に備えて避難経路を確認するとともに、自分・他人の命を守る行動ができるよう、防災に関する知識をしっかりと修得する。

２　自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解するとともに、安全な避難方法等を確認しておく。

主なプログラム

① シェイクアウト訓練
（和歌山さくら支援学校と合同）

② 救命・救急法講習

③ 合同防災訓練
（和歌山さくら支援学校と合同）

④ ハザードマップ調べ学習、非常食体験

⑤ 津波 DVD 鑑賞

概要

①　地震発生を想定し、身を守るための初期動作の確認として、全校一斉のシェイクアウト訓練を併設施設である「和歌山さくら支援学校」と合同で行った。

②　２年生のスポーツ健康科学科３４名が「水泳実習」のプログラムとして日本赤十字社和歌山支部の方々に協力をいただき、心肺蘇生法等の講習を行った。

③　大規模な地震が発生、本校舎の第２棟１階の調理教室から火災が発生したことを想定し、防災訓練を和歌山さくら支援学校と合同で実施した。和歌山北消防署の協力を得て、火災時における初動・通報・避難・消火訓練を行った。

④　地域で想定される自然災害について考える中で避難意識を高めるため、１年生において自宅のある地域付近のハザードマップや通学途中にある避難場所等の確認を行った。また、非常食の「アルファ米」の調理方法等についても確認した。

⑤　各クラスにおいて、津波発生時の対応等についての DVD を視聴し、防災意識を高めた。

参加者感想文

・災害発生時、人の命も大事だが、まずは自分自身の命を守る行動をとることが必要だと思った。防災について学べる機会があれば今後も積極的に参加したい。

・いつ、どこで、だれが倒れるかわからない。その人を助けるために必要な行動ができるようにしなければならないと感じた。今回、心肺蘇生法等の講習を受けることができ、すごくいい経験になった。

・自然災害はいつ、どこで起こるかわからない。普段からそのことを意識して生活をすることが大切だと思った。また、家族で防災に対する意識を高めるため、話し合うことが必要だと思った。

・ハザードマップを確認して避難することのイメージができた。しかし、その時々の状況に応じてハザードマップを意識しすぎずに状況に応じて行動することが必要だと感じた。

・津波のDVDを見て、地震により津波が来そうになったら、まずは自分自身の命を守る行動をとることが必要だと思った。

成果と課題

【成果】

和歌山さくら支援学校と合同でのシェイクアウト訓練及び防災訓練を実施した。どちらの訓練でも全体的に災害発生時を想定し、迅速に自分の身を守る行動がとれていたように感じる。

また、それぞれの学習により、近い将来に発生が予想されるであろう「南海トラフ地震」をはじめとする大規模な自然災害に対する防災の大切さを確認・意識することできた。

【課題】

今年度については数年ぶりに隣接の和歌山さくら支援学校と合同での訓練ができたが、更に防災の意識を高め、協力体制を確立するためにも継続した防災教育（学習）を実施していく必要がある。また、引き続き地域全体として災害に備える体制の構築に向け、地域の方々との合同防災訓練についても検討していきたい。

和歌山高等学校

実施日時	令和５年１１月１７日（金）
参加者	生徒３８６名、教職員４９名　計４３５名
実施内容	シェイクアウト、避難訓練、防災講習

ねらい

１ 自然災害等の現状及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。

２ 地震、台風発生、異常気象等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

３ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

主なプログラム

１ シェイクアウト訓練

２ 校舎外への避難訓練

３ 防災講習（講演）

４ 振り返り学習

概要

１　新型コロナウイルス感染症も第５類に引き下げられたため、３学年一斉に防災スクールを行った。３年間大規模に開催されていなかったこともあり、当初は１時間の計画であったが、今回は避難訓練も一緒にして、２時間続きの計画にした。

２　生徒体験型の防災スクールは時間と場所、人員確保に限りがあるので、今年度は和歌山市危機管理局危機管理部地域安全課にお願いをして、「和歌山市の災害と防災対策について」講演をしていただいた。

３　当日は雨で、避難場所のグラウンドが使えず、全員体育館に避難し、そのまま引き続き講演を行った。講演内容は具体的で、生徒は真剣に聴き、教室に戻っての振り返りでもきっちりと感想を書けていた。

参加者感想文

・3年女子(避難訓練について)

　机が小さくて体の全てを机の下に入れることは難しいけど、頭を守るようにと言われ、頭は机の下に入れました。避難訓練なので皆落ち着いて歩いて避難していましたが、本当に地震が来たときにはパニックになって騒がしくなりそうだなと思いました。「おはしも」（おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない）を守って避難訓練ができたと思います。

・2年男子(講演について)

　まずは、自分の命をまもるための正しい知識と行動について丁寧に説明してくださったので、今自分にできることとして、家具の配置や家族との話し合い、防災セットの用意などはしておきたいと思いました。自分は避難場所でのストレスや犯罪などのトラブルがとても心配なので、今日は様々な側面からの対策を聞けたことで、十分な準備をして定期的に意識して防災について考えていきたいと思いました。

・１年女子(講演と振り返り学習について)

今日の学習で、災害はいつおこるかわからないから、いつでもすぐ逃げられるように防災バッグの準備や避難場所なども家族と一緒に話し合っておかないといけないと思いました。ハザードマップ等も見て確認しようと思いました。また、すぐに逃げられるように寝室の家具の位置や物の置き方等、倒れてきても大丈夫なように対策をたてようと思いました。

成果と課題

【成果】

１　３年ぶりに３学年一斉の防災スクールを行うことができた。生徒は自然災害の脅威と、日頃の防災に向けての準備と、避難の大切さを知ることができた。

２　地域・保護者との連携及び開かれた学校としての観点から、避難訓練の実施や緊急放送の使用をあらかじめ周知することで、学校での活動を知らせることができた。

【課題】

１　開催時期が１１月であったため、インフルエンザ等、感染症の流行も考慮する必要があった。来年度は早い時期での実施と、各学年による生徒主体の体験的な学習を取り入れたい。

２　今回は地震後の火災による避難訓練を実施したが、天候や被災状況によっては避難経路等も異なるので、何通りも想定する必があると感じた。また、学校以外の場所では生徒が率先して避難する習慣をつけることも必要であると思った。

３　地域・保護者との連携については、避難訓練の周知だけにとどまらず、今後は地域住民参加型の活動も積極的に取り入れていきたい。

（シェイクアウト訓練）

（避難訓練「おはしも」）

（防災講習）

向陽高等学校

実施日時	令和６年３月２１日（木）
参加者	生徒約２８０名、教職員２０名、外部講師約１０名　計約３１０名
実施内容	避難所運営訓練、応急手当、マイトイレ作り　等

ねらい

１　講義を受けるだけでなく、自ら体験することにより、これまでの学び（理論）を生きて働く知識・技能（実践）に変換し、危機管理意識を育成する。

２　「自助・共助・公助」を実践し、地域社会に貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

１　炊き出し・配給訓練
２　防災グッズ製作、衛生管理訓練
３　パーティション設置訓練
４　マンホールトイレ設置見学
５　救急法・搬送
６　ＡＥＤ操作要領

概要

１　非常食「α米」の作り方を確認し、試食する。

２　ＨＲ教室で防災グッズ（マイトイレ・レインコート・スリッパ）を製作する。

３　和歌山市職員指導のもと、体育館にてクラス単位で組み立て、住居スペースを体験し、片づける。

４　校内のマンホールトイレの設置方法を見学し、和歌山市職員から説明を受ける。

５　自衛隊和歌山地方協力本部から招聘した講師の先生に救急法・搬送法を教授していただき、生徒も実践する。

６　自衛隊和歌山地方協力本部から招聘した講師の先生にＡＥＤ操作を教授していただき、生徒も実践する。

参加者感想文

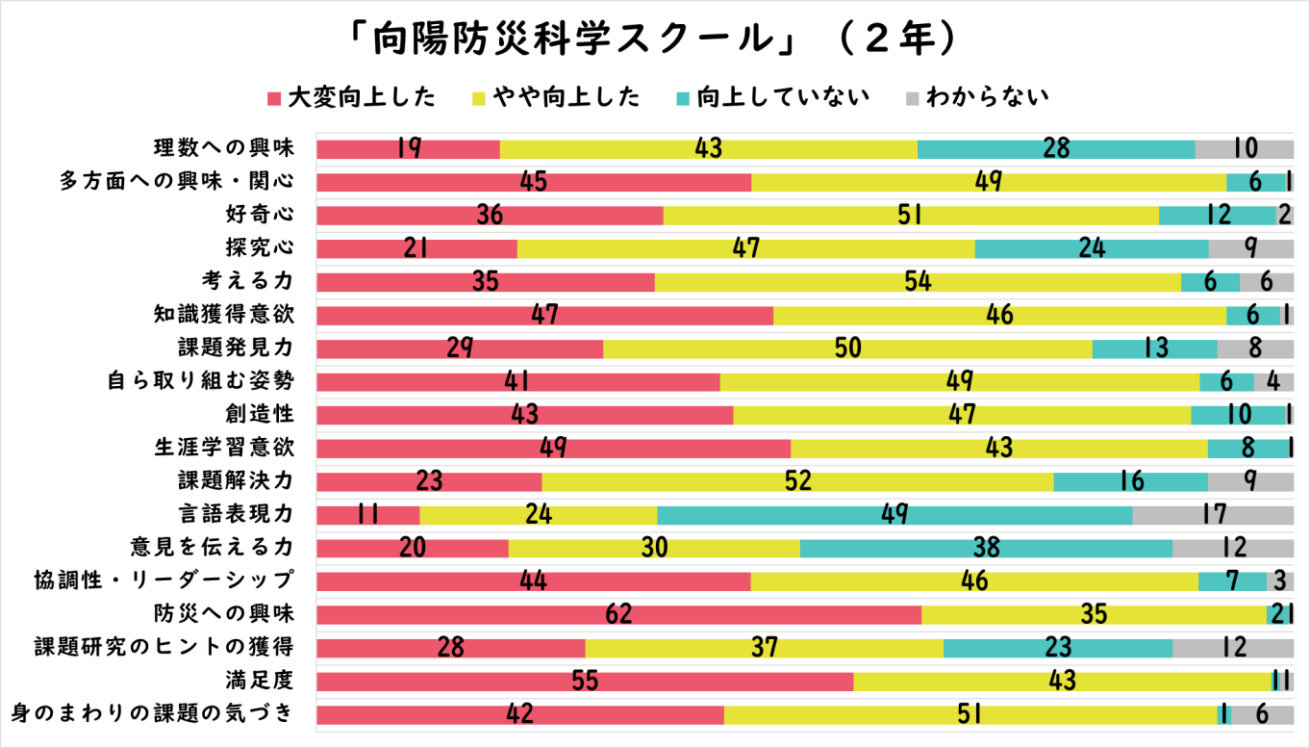
・α米を始めて食べたが、クセがなくおいしかった。
・ＡＥＤの使い方及び心肺蘇生法は何回教科書で勉強しても自分でできる気がしなかったが、今回イメージがつかめた。
・もし災害が起こって、県や市の職員さんがすぐに来られないような状況になったとしても自分たちで率先して、命を守るための行動をすぐとれるようにしたいと思いました。

成果と課題

【成果】例年同様に複数のプログラムを用意し、一定時間で巡回する方式で行った。そ

のため、生徒は興味・関心を持ちながら集中して取り組むことができた。
【課題】今後は地域住民と連携した活動を模索していきたい。

【アンケート結果】



向陽防災科学スクールのようす

１１月にはきいちゃんの災害避難ゲームを用いて
「向陽防災科学ワークショップ」（高校２年生対象）を実施しました。

桐蔭中学校・高等学校

実施日時	令和５年１２月７日（木）１４時 10 分～１６時
参加者	生徒　(高１、高2)５５３名、(中学１、２、３年)241名、 教員　高校３８名、中学８名　計８４０名
実施内容	避難所運営訓練(パーティション設営)、災害時の対応(地震・津波についての基礎講座)、救急法、ロープワーク、被災地出隊に係る講話、地震体験(「ごりょう君」)、公衆電話・災害用伝言ダイヤル 171 体験教室、マイトイレ&非常用スリッパ作り、アルファ米炊き出し

ねらい

１．地震・津波の発生時における、緊急避難に対応できる行動力を身に付ける。

２．避難場所である桐蔭高校に大勢の避難者が来校した際、本校の生徒及び職員・避難者が互いに協力し、安全かつ迅速に避難行動がとれる実践力を身に付ける。

３．中高生における防災学習・スクールを通して、自助・共助に関する理解を深める。

主なプログラム

１．避難所運営訓練(パーティション設営)

２．災害時の対応(地震・津波についての基礎講座)
　地震体験(「ごりょう君」)
　公衆電話・災害用伝言ダイヤル 171 体験教室

３．被災地出隊に係る講話、ロープワーク、救急法

４．マイトイレ&非常用スリッパ作り

５．アルファ米炊き出し

６．報告会(各ホームルームで)

概要

1　和歌山市危機管理局地域安全課の協力を得て実施。
体育館二階で、避難所での居住空間作りとしてパーテーション設営、段ボールベッド設営などを実際に体験した。

2　和歌山県危機管理局防災企画課の協力を得て実施。県の防災方針、ポータルアプリ「防災 NAVI」や地震・津波についての講義を受けた。
地震体験車「ごりょう君」では地震の揺れでの強烈な恐ろしさを実体験した。
　日本公衆電話会の協力を得て、災害用伝言ダイヤル 171 や公衆電話の緊急通報用赤ボタンなどを体験した。

3　自衛隊和歌山地方協力本部の協力を得て実施。被災地での被害の状況や自衛隊の活動ぶりを通して「物心両面」での備えの大切さをひしひしと学んだ。
グラウンドではロープワークについての講習を受け、救出活動時のまさしく命を「繋ぐ」結び方を実践的に学んだ。
ダミーを用いた心肺蘇生法と、身の回りの物を用いた簡易担架の作り方・搬送の方法や留意点等を学び体験した。

４　教員の演示を受けて、新聞紙とペット用シーツを用いる簡易トイレと、非常用スリッパを製作した。

５　アルファ米炊き出しでは、熱湯ではなくペットボトルの水を用いるため、早朝からの仕込みを経て本番での配食･配膳を行った。

６　体験後、各ホームルーム教室に戻り、参加した活動について簡潔にクラス全体に報告。各班が体験したメニューは二つしかないため、他の班の報告を聞くことで防災・減災の要点を全員で共有した。

防災スクール 一覧表　　令和5 年 12月7 日（木）　6. 7限（1 4:10 ～1 6:0 0）

	内容	担当	注意事項	場所	第１メニュー 14:10～14:45 (35分)		移動・休憩 (10分)	第２メニュー 14:55～15:30 (35分)		移動 (5分)	15:35～16:00 (25分)
1	・ロープワーク ・「地震体験車ごりょう君」 ・公衆電話・災害用伝言ダイヤル171体験教室	自衛隊	各班で、地震体験をする代表２名をあらかじめ決めておくこと。	グラウンド (雨天時 生徒ホール)	1班			4 班			ＨＲ教室で 各班 ３分ずつ 発表→共有
2	・救急法	自衛隊		柔道場	2 班			5 班			
3	・被災地出隊に係る講話	自衛隊		剣道場	3 班			6 班			
4	・「防災ＮＡＶＩ」アプリ ・災害時の対応等についての講話	(県)防災企画課	・会場の確認を、必ずしておくこと。 ・スマートフォンを、有れば持参すること。	会議室	4 班	中１Ａ・中２Ａ・中３Ａ １Ａ・１Ｃ・１Ｅ・１Ｇ ２Ｂ・２Ｄ・２Ｆ		2 班	中１Ａ・中２Ａ・中３Ａ １Ａ・１Ｃ・１Ｅ・１Ｇ ２Ｂ・２Ｄ・２Ｆ		
	・「防災ＮＡＶＩ」アプリ ・災害時の対応等についての講話	(県)防災企画課		視聴覚室		中１Ｂ・中２Ｂ・中３Ｂ １Ｂ・１Ｄ・１Ｆ ２Ａ・２Ｃ・２Ｅ・２Ｇ			中１Ｂ・中２Ｂ・中３Ｂ １Ｂ・１Ｄ・１Ｆ ２Ａ・２Ｃ・２Ｅ・２Ｇ		
5	・避難所運営についての留意事項の説明 ・パーティションを用いた避難所設営	(市)危機管理局 地域安全課		体育館・西側	5 班			7 班			
6	・アルファ米炊き出し	本校	当日朝８時、各班代表者１名は体育館に集合。（非常食の種類を選び、下準備をする）	体育館・東側	6 班			1 班			
7	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校	・会場の確認を、必ずしておくこと。 ・スマートフォン、クリップ２個を、有れば持参すること。	化学教室	7 班	中１Ａ・中２Ａ・１Ｄ １Ｅ・１Ｇ・２Ａ・２Ｆ		3 班	中１Ａ・中２Ｂ・１Ａ １Ｂ・１Ｆ・２Ｂ・２Ｆ		
	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校		予備室2-2		中１Ｂ・中3Ａ・１Ａ １Ｃ・２Ｂ・２Ｄ・２Ｇ			中１Ｂ・中3Ａ・１Ｅ １Ｇ・２Ｄ・２Ｇ		
	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校		予備室2-1W		中２Ｂ・中3Ｂ・１Ｂ １Ｆ・２Ｃ・２Ｅ			中２Ａ・中3Ｂ・１Ｃ １Ｄ・２Ａ・２Ｃ・２Ｅ		

成果と課題

【成果】

今回の防災スクールでは、自衛隊・和歌山県・和歌山市の各関係機関の協力を得て、体験を重視した防災教育を実施した。約８００名の生徒が参加する大きな学校行事となったが、大きな混乱もなく、生徒の反応も非常に良好であった。そして体験を通して多くの生徒が、「緊急避難に対応できる行動力」、「安全かつ迅速に避難行動がとれる実践力」を学ぶ良い機会になったと感じる。また生徒がお互い協力し体験する中で「自助・共助」の重要性を改めて理解し、主体的に行動できていた点も大きな成果であった。

【課題】

本年度のスタイルで毎年開催するためにはメニューを変更する必要があるが、メニュー変更に対応できるかが課題である。よって、このスタイルは隔年開催とし、別内容の防災スクールを実施したい。

和歌山東高等学校

実施日時	令和５年１１月２日（木）、１１月６日（月）、令和６年３月４日（月）
参加者	生徒３６６名、教職員４７名、計４１３名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難訓練、防災学習等

ねらい

１　生徒の防災への意識を高める。
２　災害発生時に於いて、生徒が自らの命を守る行動ができるようにする。
３　郷土の偉人の業績を知る。

主なプログラム

１　シェイクアウト訓練
２　避難訓練
３「世界津波の日」濱口梧陵に関する学習

概要

１　全学年の生徒、教職員が地震及び津波を想定し、命を守る行動がとれるようにシェイクアウト訓練を行った。
２　災害発生時、各教室からの避難を想定し、経路確認及び避難訓練を行った。
３　「世界津波の日」濱口梧陵のパンフレットや防災ハンドブックを活用し、郷土の偉人の業績、災害時にとるべき適切な行動等について学習した。

参加者感想文

・南海トラフ地震が来ると言われているので防災のことを学んでおくのは大切だと思った。
・非常持出品など、考えておくことが必要だと思った。
・災害時、率先避難者になる。

成果と課題

【成果】
・近い将来、起こると予測されている南海トラフ地震等の自然災害に向けて、自助、共助についての意識が高まった。
・災害時にとるべき適切な行動や、普段からの備えについて意識することができた。
・郷土の偉人の業績について知ることができた。

【課題】
・今年度より、新型コロナウイルス感染症が５類となり、学校生活もコロナ以前に戻りつつあるが、地域の方々と連携した行事については防災訓練を含めできていない。
　今後、地域と連携・協働した防災スクールを実施し、地域社会に貢献できる防災リーダーを育成したい。

星林高等学校

実施日時	令和５年１０月３０日（月）
参加者	生徒３２０名　教職員１１名　　計３３１名
実施内容	一次救命処置（心肺蘇生とＡＥＤ）／アルファ米炊き出し・配膳訓練／パーティション組立・撤収訓練、非常用スリッパ・トイレ作成／土砂災害ワークショップ「ハザードマップとタイムライン作成」／地震体験車「ごりょう君」

ねらい

①災害発生時、安全を確保し敏速な避難行動がとれるようになる。②参加者を主体的に行動させることで、防災意識を高め「自助」「共助」「公助」の精神を養う。③「南海トラフの巨大地震」と「東海・東南海・南海３連動地震」による津波浸水・地震被害想定に対応した避難行動がとれるようになる。

主なプログラム

１．一次救命処置（心肺蘇生とＡＥＤ）講習

【星武館】人形を使った人工呼吸、胸骨圧迫の実技講習及びＡＥＤの使用を学ぶ

２．アルファ米炊き出し・配膳訓練

【生徒ホール】→【調理室】「わかめごはん」「田舎ごはん」「ドライカレー」「チキンライス」４種類、約 350 食分の炊き出しと配膳の訓練

３．パーティション組立・撤収訓練、非常用スリッパ・トイレ作成

【体育館】段ボールとクリップを使いパーティション組立と撤収の訓練。新聞紙を使用したスリッパとトイレの作成

４．土砂災害ワークショップ「ハザードマップとタイムライン作成」

【LL 教室】

ハザードマップと自宅の地図を重ね合わせ、避難するまでのタイムラインを作成

５．地震体験車「ごりょう君」による地震体験

【中庭】

「出張！減災教室」を活用した地震体験車「ごりょう君」による地震体験

概要

日　　時　　令和５年１０月３０日（月）

場　　所　　和歌山県立星林高等学校

参 加 者　　生徒１年生 320 名　教員 11 名

①一次救命処置（心肺蘇生とＡＥＤ）講習

　対象：生徒 60～70 名及び教員２名

②アルファ米炊き出し・配膳訓練

　対象：生徒 40～50 名及び教員３名

③パーティション組立・撤収訓練、非常用スリッパ・トイレ作成

　対象：生徒 120～140 名及び教員３名

④土砂災害ワークショップ「ハザードマップとタイムライン作成」

　対象：生徒 20～40 名及び教員２名

⑤地震体験車「ごりょう君」による地震体験

　対象：生徒 30～50 名及び教員１名

成果と課題

【成果】

一次救命処置（心肺蘇生法とＡＥＤ）では、各自が救援者として活動ができるように、日本赤十字社

和歌山県支部から２名を招き、人形を使った人工呼吸・胸骨圧迫の実技講習に加え、ＡＥＤの使用方法を学習した。救急車が到着するまでの間、何をするべきかを知ることで、いざという時に役立てたい。アルファ米炊き出し・配膳訓練では、生徒ホールと調理室のお湯を使ってスムーズにおこなうことができたが、実際に災害に遭った時、いかに大量の水・火器を確保するかについても考えておく必要がある。パーティション組立・撤収訓練及び新聞紙によるスリッパ・トイレ作成では、生徒たちは戸惑うことなく、スムーズに組み立てることができた。

【課題】

・近隣には小学校・中学校・高校があり、地域住民の方々も含め、災害が起こった場合かなりの混雑が予想される。共同訓練の実施などを検討する必要がある。

・実際の災害時には混乱したなかで活動することになり、いかに緊張感を持って訓練できるかが課題である。

・訓練は、授業中のホームルーム教室を想定していることが多い。体育館・グランド・特別教室、休み時間中なども想定し、教員がその場面にいない時でも、生徒１人１人が的確な判断ができるような訓練も必要である。

地震体験車「ごりょう君」

一次救命処置（心肺蘇生とＡＥＤ）講習

土砂災害ワークショップ
「ハザードマップとタイムライン作成」

アルファ米炊き出し・配膳訓練

和歌山工業高等学校

実施日時	第１回　令和５年　８月　１日（火） 第２回　令和５年１１月　２日（木）
参加者	生徒１１１２名、教職員８４名　計１１９６名　（のべ人数）
実施内容	地震防災についての講演会 シェイクアウト訓練・地震津波避難訓練　等

ねらい

１　防災と向き合い、正しい知識・判断力・行動力を身につける。

２　災害発生時に身の安全を確保し、すみやかに避難行動に移せるようにする。また「自助」・「共助」の意識を身につけさせる。

主なプログラム

１　講演会「地震防災についての基礎知識」

２　避難訓練・シェイクアウト訓練

３　災害時の役割分担の確認と「防災ハンドブック」等の活用

概要

１　講演会「地震防災についての基礎知識」

《教室での講演の様子》

和歌山県危機管理・消防課の「出張！減災教室」を活用し、８ 月の登校日に１年生を対象に地震と防災についての講演会を実施した。

実施日　令和５年８月１日（火）

場所　和歌山工業高等学校　各教室
（熱中症対策のため、体育館での開催予定を教室に変更）

対象　１年生　２９０名（９クラス）
職員　１８名

講演テーマ「地震津波についての基礎知識」

講師　県総務部危機管理局危機管理・消防課よりの派遣講師

生徒アンケートより（抜粋）

- 災害に対する危機感を持つことができた。
- 風水害についてもっと知りたいと思った。
- 日本はプレートの境目の近くにあるので、地震対策をしっかりするべきだと思った。
- 自分の住んでいる場所の防災情報を知っておきたいと思った。
- 簡単に防災グッズを作れるのならつくりかたを学びたい。
- 地震に詳しくなると、命を守る行動がとれると思った。
- 和歌山県は、災害に対してどのような対策をとっているのかもっと知りたい。

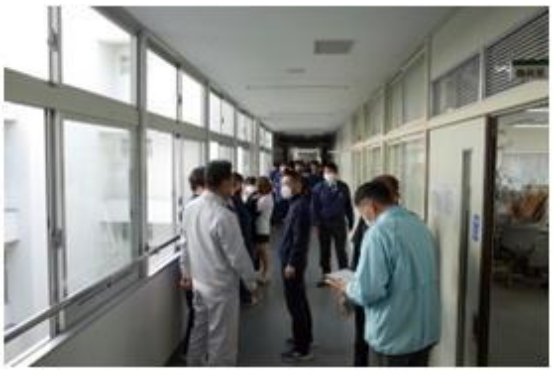
２　避難訓練・シェイクアウト訓練

全国で実施される緊急地震速報にもとづき、「大地震発生にともなう津波警報が発令された」との想定で、シェイクアウト訓練、その後全校生徒が本館３階以上への避難を行った。

実施日　令和５年１１月２日（木）
対象　全学年　８２２名（27 クラス）
職員　８４名

《シェイクアウト訓練 様子》

《階段を避難する 様子》

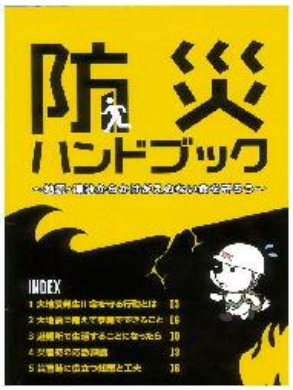


《本館５階のローカへ避難した 様子》

３　災害時の役割分担の確認と「防災ハンドブック」等の活用

《教室にて担当教員から説明を受ける 様子》

避難訓練後に、各 HR で非常災害時における生徒の役割分担（消火班、搬出班、救護班、警備班、避難誘導班など）の確認を周知させる指導を行った。



教育委員会の「防災ハンドブック」を配布し災害時の対応について説明した。また、「世界津波の日」のパンフレットを配布し、「津波の日」の周知と、津波発生時の対応や危機管理についても啓発を行った。

実施日
　１１月２日
対象
　全学年
　８２２名

成果と課題

【成果】

８月に１年生を対象に「地震津波についての基礎知識」のテーマで講演を行った。当初、体育館で開催する予定であったが、猛暑により急遽教室のプロジェクタを活用したオンライン配信に切り替えて実施した。エアコンの効いた教室でのオンライン配信のほうが、結果的には効果的であった。生徒アンケートをみても、講演内容については大変役立ったという意見が多かった。近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震に備え、防災への意識を高め、地域防災の担い手の育成、防災・減災に関する基礎的な知識を身につけることができた。

１１月２日１０時からの「防災和歌山市の訓練放送」に合わせて、防災避難訓練をおこなった。各教室・実習室で安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」の訓練をするため、机の下等に隠れて身を守るシェイクアウト訓練をおこなった。その後、津波警報が発令されたという想定で、本館３階以上に避難する訓練を実施した。本校は生徒数が大変多いが、全生徒が避難するのに要した時間は約１２分であった。

避難訓練では、迅速に避難する事とあわせて、次の３点について意識を持って取り組んでいる。

① 現実的な訓練とすること
② 自分の身を守ること「自助」
③ 地域の避難場所として「共助」について考えること

事後指導として災害時の防災役割分担の周知、教育委員会の「防災ハンドブック」を配布し、命を守る行動、災害時の応急対応等について説明した。また、「世界津波の日」のパンフレットを配布し、「津波の日」の周知と、津波発生時の対応や危機管理について啓発を行った。

【課題】

防災についての意識を高めるために、「自助」の視点と「共助」の視点が大切である。「自助」については、高校生自身ある程度の自己防衛が可能である。しかし、「共助」の意識をどのように身につけさせるかが、今後問われている。

本校は海抜 1.7mのところにあり、和歌山市の防災マップでも津波が発生した場合は１～２mの浸水が想定される地域に位置している。津波警報が発令された場合、近隣の住宅地に住まわれている高齢の方等が、高層階がある本校に避難されてくることも考えられる。特に本校は、校舎が新しく地域の防災拠点としての役割もある。自助の避難訓練に加え、地域の方の避難を助ける共助の避難訓練も今後の課題として研究していきたい。

和歌山工業高等学校定時制

実施日時	第１回　令和５年９月１日（金） 第２回　令和５年９月１５日（金） 第３回　令和5年11月２日（木）
参加者	第１回　生徒１８名、教職員１９名　計３７名 第２回　生徒７名、教職員６名　計１３名 第３回　生徒１８名、教職員１９名　計３７名
実施内容	第１回　防災学習（避難カード、災害伝言ダイヤル等） 第２回　救命救急講習（心肺蘇生法、AEDの活用法等） 第３回　避難訓練、防災備品取扱訓練

ねらい

防災意識を高め、災害発生時に自分の身を守る（自助）とともに、地域の防災リーダーとして地域に貢献する（共助）ことのできる能力を育成する。

主なプログラム

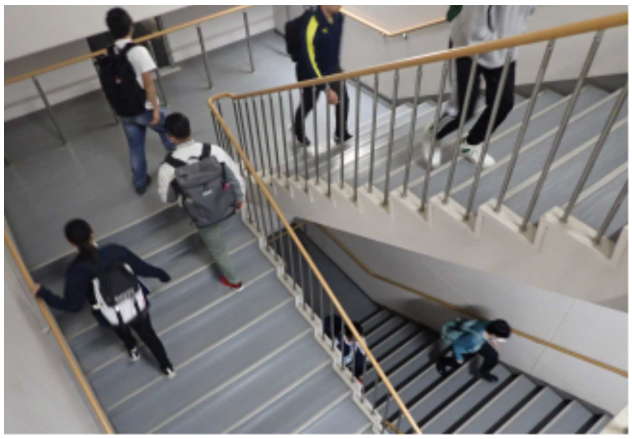
１　防災学習
（避難カード、災害伝言ダイヤル等）
２　救命救急講習
（心肺蘇生法、AEDの活用法等）
３　避難訓練
４　炊き出し・配給訓練

概要

１　防災の日である9月1日に、防災ハンドブック等を活用し、防災教育を実施。この地域では周期的に地震が発生していることや地震が発生した場合にどのようにして自分たちの身を守ればよいか等について学習を行った。

２　9月15日に和歌山市中消防署から3名の講師を招いて、胸部圧迫による心肺蘇生及びAEDの使用方法等について講習を実施した。

３　11月2日に全校生徒を対象として、避難訓練を実施。和歌山県沖合で地震が起こり、津波の可能性が高いという想定で本館６階への避難を行った。



４　避難訓練終了後、避難所に常備されていることが多いアルファー米を実際に調理し、試食した。

参加者感想

・身の回りで倒れている人を見つけた時に、今日教わった応急処置を使えば、生存率を上げることができると思います。とてもためになりました。

・胸部圧迫については、簡単そうに見えたけれど、実際にやってみるとつづけるのが大変でした。逆にAEDは難しそうに思えたけれど、実際にやってみると、装置本体に書いてある説明をしっかりと読めば簡単にできることが分かりました。

・アルファー米を食べたのは初めてだったので、最初は恐る恐る食べたけれど、結構おいしかった。

成果と課題

【成果】

３回に分けて実施したことにより、多くの生徒が集中して取り組むことができた。また、実際にAEDの操作やアルファー米の調理等の実践を行ったことで、災害発生時に自信をもって行動することができるという生徒もいた。

【課題】

今回はHR教室で授業を行っている際に地震が発生したという想定であったが、工業高校で多くの実習授業を行っている本校では、実習中に地震が発生する可能性も高く、その場合の訓練も必要である。来年度は想定を見直し、生徒の安全確保に努めていきたい。

和歌山商業高等学校

実施日時	2023 年 11 月 2 日(木)
参加者	生徒 798 名、教職員５６名、計 854 名
実施内容	避難訓練

ねらい

１　近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させる。

２　地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成。

主なプログラム

・避難訓練

概要

南海トラフ巨大地震に備え、集合場所への迅速な行動、点呼・確認方法の訓練を行う。震度５強から６弱の地震の激しい揺れに対し、校舎は倒壊しなかったが、教室や廊下の窓ガラスが割れ、天井や照明器具が落下。火災は起きておらず津波警報が発令されている想定で避難訓練を実施。

参加者感想文

・日頃から、家族といざという時のために避難場所などを話したり、避難するときは、自分も周りもパニックにならないように避難するなどの対策をしないといけないと思いました。

・外で地震が起こった場合、自分の身を守るだけではなく他の人も見て、安全な場所へ誘導したり声をかけたりするなどして、出来る限りの事をしようと思いました。

成果と課題

【成果】

本校は海に近いところにあり、避難訓練は屋外へ避難するのではなく、校舎の三階以上へ避難することにしている。避難はスムーズに、粛々と全校生徒が校舎の三階以上へ避難することができた。

【課題】

地域の高校として、災害時にどのような役割や活動ができるのか、可能な限り実現できる

よう計画・行動していくことが必要である。自治会や保育園、小中学校と連携して減災を目指し、災害時に避難所運営や防災リーダーとして高校生が積極的に活動し、地域に貢献できるようにしていくことが今後の重要な課題である。

海南高等学校

実施日時	令和５年１２月１３日（水）
参加者	生徒２５２名、教職員１５名　計２６７名
実施内容	避難訓練（全学年）、防災学習、避難所運営ワーク、新聞紙スリッパ・マイトイレ作り

ねらい

１　近い将来起こると危惧されている南海トラフ巨大地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する知識や技術を身につけ、防災への意識を高める。

２　地域の防災を担うリーダーを育成する。

主なプログラム

１　避難訓練（全校生徒）

２　防災学習

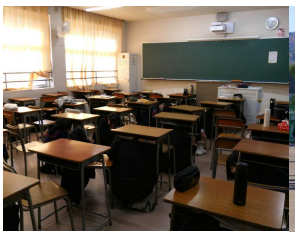
　１学年　防災クイズＱ＆Ａ
　　マイトイレ作り

　2学年　避難所運営ワーク
　　新聞紙スリッパ作製

概要

１　避難訓練（全校生徒）

　授業中に緊急地震速報が発表され、地震が発生したという想定のもと、全クラスでシェイクアウト訓練を実施した。また、校内で火災が発生したと想定して、全校生徒が教員の誘導により避難経路をとおり避難場所であるグラウンドへ避難した。全員の避難完了、点呼確認のあと海南市消防署職員から訓練についての講評を聴いた。



２　防災学習（避難訓練後に実施）

　１年生はＨＲ教室でＰ.P.を用いた防災クイズＱ＆Ａを実施し、災害への備えや減災のための具体的な方法を学んだ。また、ボランティア委員が中心となり、新聞紙を用いたマイトイレ作りを行った。

　２年生は、各HRで避難所運営のときに起こり得る問題について、6つのグループに分かれ解決策を検討した。また、クラブ部員が中心となり、新聞紙を用いたスリッパを作製した。

参加者感想文

・校庭に逃げる避難訓練はスムーズに進んだと思います。

・簡易トイレはお店で販売されていますが、一人につき一日あたり４～８個、一週間分が必要となります。今回、新聞紙での作り方を学べてよかったと思います。

・防災クイズでは食糧は１週間分必要で高カロリーで軽量なものがいいと、以前に言われていたことと変わっていたので、防災バッグの中身をもう一度見直そうと思った。

・今日の避難訓練は事前に知らされていたけれど、実際に災害が起きた時はパニックで焦ってしまいそうだ。今日の訓練やこれまでの訓練を生かしてできるだけ冷静に行動しようと思った。

・簡易トイレの作り方や、災害時のための備蓄用品など新たに知識を得る機会となった。防災クイズで知ったことを災害のときに生かせるようにしたい。

・防災クイズは14問正解することができた。すぐにわかる問題もあれば、悩んでしまう難しい問題もあった。しかし、解説を聞いてなるほどと納得できた。

・災害はいつどこで起こるかわからないので、日頃から準備したり外出先でも避難経路を確認したりしようと思いました。また、災害に備えて家族と話し合いをしないとだめだと改めて感じました。

成果と課題

【成果】

避難訓練では、あわてることなく避難場所へ移動した。１年生では防災クイズと生徒を中心としたマイトイレ作りを行った。また、２年生では避難所運営時の問題点や高校生ができることについて意見交換を行った。災害の備えをし、災害時には今回学んだことを少しでも実践したい等の感想が多くみられ、防災意識を高める機会となった。

【課題】

昨年度は、関係機関の協力を得て　①防災講演、②災害時のロープワーク、③避難所運営ワーク、④心肺蘇生法・AEDの使用法、⑤段ボールベッドの作製、⑥車いす体験　の6部門のブースを設け、１・２年生が一人2ブースに参加する形で実施した。今年度も同様に計画していたが、複数のクラスが学級閉鎖となったため急きょ予定を変更し、上記の内容で実施することとなった。次年度に向けできるだけ実技体験的な講習を計画し、実施することが課題である。

海南高等学校　定時制

実施日時	令和５年６月23日（金）、９月２９日（金）、１１月１７日（金）
参加者	生徒１名、教職員４名　　計５名
実施内容	きいちゃん災害避難ゲームを使った避難所運営学習、 避難訓練（垂直避難訓練・図上避難訓練・シェイクアウト避難訓練）、 避難所での生活の学習・炊き出し体験実習、防災動画の視聴

ねらい

１．近い将来起こると想定されている南海トラフ巨大地震などの自然災害に備え、防災・減災に関する基礎的事項を系統的に理解し、防災への意識を高める。

２．地域防災の担い手として社会貢献できる青少年を育成する。

主なプログラム

１．ハザードマップを用いた図上防災訓練

２．洪水を想定した垂直避難訓練

３．シェイクアウト避難訓練

４．避難所での生活について

概要

１．６月23日（金）、きいちゃん災害避難ゲームを使用し、災害時に避難場所にたどり着くまでの課題や事前準備の大切さ、避難所運営の方法やトラブル対応について、体験的に学習した。

２．令和５年６月２日の台風２号による海南市地域の水害被害について、ハザードマップを用いて検討した。学校周辺の危険区域を知り、避難場所や安全な避難経路の確認を行った。その後、洪水を想定した垂直避難訓練を行った。また、自宅周辺のハザードマップを用いて、自宅周辺の避難場所の確認と安全な避難経路について図上避難訓練を行った。

３．11月１７日に実施した、シェイクアウト避難訓練および避難所での生活の学習では、南海トラフ巨大地震について動画教材で学習した後、緊急地震速報が発表されたことを想定して、シェイクアウト避難訓練を行った。その後、防災ハンドブックをテキストとして避難所での生活について学習し、最後に、炊き出し体験実習を行った。

参加者感想文

・家や学校の近くに川があるので、川が増水して危険なときは、むやみに外へ出ず垂直避難のほうが安全なこともあるのがわかった。

・避難所での生活は、大変だと思うが、被災時でも温かい食事が出来るよう、炊き出しの練習が出来て良かった。普段から家でも準備をしておきたい。

成果と課題

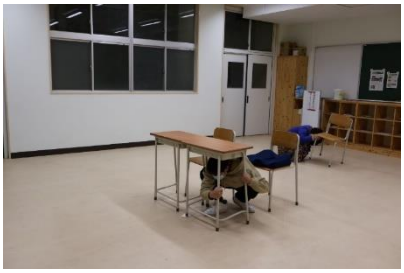
【成果】

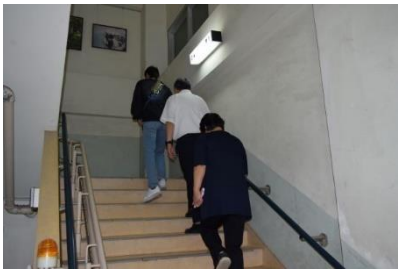
学校や自宅周辺の危険区域や安全な避難経路、避難場所の確認を行うことで、緊急時でも率先して避難し、安全に行動できる様、準備をすることが出来た。

また、避難所生活においての、様々なトラブルや事前準備の大切さを学習し、炊き出しの体験実習をすることで、避難生活時に地域に貢献できる準備が出来た。

【課題】

夜間定時制であるため、校外の避難場所への避難訓練を実施する場合には、注意が必要である。また、生徒数が少ないため、大勢で協力して取り組む形の訓練を実施することは難しい。





海南高等学校　大成校舎

実施日時	令和６年３月６日（水）
参 加 者	生徒　６０名、教職員　１０名、　計　７０名
実施内容	簡易担架作成訓練、消火器操作訓練、防災学習　等

ねらい

１．頻発する自然災害に対する知識や心構えについての学習を行う。

２．日常生活を通しての減災に対する実践的な態度を育成する。

３．災害後に必要とされる行動及び共同作業のスキルを習得させる。

４．これらを通して災害に対する「自助」「共助」「公助」について３年間を通して総合的な学習を行う。

主なプログラム

１．大地震により本校舎でけが人が出たり、避難所的な役割を果たさなくてはならなくなった場合を想定した訓練を実施する。消防署の協力を得て簡易担架作成訓練、消火器操作について受講する。

２．地震体験車による地震体験

３．きいちゃんの防災避難ゲーム

４．アルファ米を用いての、防災食についての説明

概要

９：００～１２：００　　各学年に分かれてプログラムを実施

参加者感想文

・地震を体験してとても怖かったし、実際になると不安でいられない気がした。

・消火器の使い方を知られてよかった。

・担架を作るときに布だけで代用できると知った。

・実際の地震はもっと長くてすごく怖いんだと思った。

・家には竹の棒はないので、洗濯物の竿など、（担架作りには）いいかも知れないと気づいた。

・担架は棒を使ったものしかないと思っていたけど、毛布のみを使った方法があると知った。

・布一枚の担架は、人を持ち上げられるのかと思ったけど、持ち上げられるんだなと思った。

・ゲームを通じて、避難場所や持ち物の用意が必要で思わぬハプニングもあると気づいた。

成果と課題

【成果】　今回の活動をとおして、地震をはじめとする「もしも、災害が起こったら」という観点で、自分の身は自分で守ること、周囲と協力し合うことなど、「主体的に行動する」ことを学ぶきっかけとなったと思う。また、１年生全員が消防署員の協力を得て、ＡＥＤの使用を含む救命救急講習を受講する。この場においても「今自分がすべきこと」を学び、考えられる生徒が一人でも多くなればと思う。

【課題】　来年度は、防災に関する講演等を実施し、減災に対する意識をより身近なものにできればと考える。

起震車体験

簡易担架作成訓練

消火器操作訓練

きいちゃんの防災避難ゲーム

海南高等学校　美里分校

実施日時	令和５年 11 月 13 日（月）
参加者	生徒１８名、教職員８名　計２６名
実施内容	避難訓練、災害時や避難所等における人権について

ねらい

１　いつ発生するかわからない災害に対する生徒の防災意識を高める。

２　発災後の被災者や避難者の心情がどのようなものかを理解することにより、被災者や避難者の心に寄添えるよう、学びを深める。

３　学校周辺地域における自然災害について理解を深め、対処する力を身につける。

主なプログラム

１　避難訓練

２　「講話」～阪神大震災でのボランティア活動や、避難所運営の経験から～　教頭より

概要

１　あらかじめ計画した避難の方法で、生徒たちを安全かつ迅速に避難場所まで誘導及び非難ができるか確認することと、生徒たちには発災時にパニックにならないように、慌てずかつ迅速に行動できるか、体験すること。

２　阪神大震災のボランティア活動に教頭が参加した時の体験から、災害現場に赴く際の電車の車窓の変化や、下車した後徒歩で避難所まで向かう時の現場の様子と避難所での避難者の様子や心情などを話すことで、生徒たちが災害にあったり、避難所運営のボランティア活動に参加したりした場合に、被災者に対し躊躇なく寄り添えるような、心の準備をすること。

また、学校での日常において、クラスメイトの心の動きを感じられるようになるための講話である。

参加者感想文

行事の内容を踏まえ、実施後生徒一人ひとりがじっくりと考える時間をつくり、家庭で家族と話すこと等を重視したため、感想文は実施ししなかった。

成果と課題

【成果】

- 生徒が教職員の指示に従い、迅速に行動できたこと
- 避難経路の確認ができたこと
- 講話において、災害現場での支援の在り方を知ることができた。
  また、当時の報道関係や支援者に対する批判や、まだ確立されていなかったボランティア活動の難しさなどを知ることで、実際の災害現場でどのように活動すればよいか、考えるいい機会となった。
- 被災者は家族を亡くしたり家をなくしたり途方に暮れた状態であったが、その心に寄添う難しさを理解することできた。
- 日常生活でもよくある言葉のかけ違いや思い込みなどで、心を傷つけたり、けんかになったりするが、何か行動する前に少し考えることで、他者に寄り添える行動ができることを学んだ。

【課題】

- 学校内だけの行事にとどまったこと
- 事前の準備が短く、地域住民の参加が叶わなかった
- 次年度は以前のように地域住民の参加型の形態をとりたい

箕島高等学校

実施日時	７月１２日（水）・１１月２日（木）・１１月７日（火）・１１月１０日（金）
参加者	生徒３７６名、教職員４５名、地域住民等１０名　計４３１名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難経路の確認、救急救命処置 熊野高校 Kumano サポーターズリダー部との連携・防災展示等

ねらい

１　地震から生命を守るための行動を身につけるとともに、慌てず落ち着いて行動する能力を身に付ける。
２　日頃から通学路等の危険箇所を知る。
３　工夫で日用品が防災グッズとして使用できる事を知る。
４　他校との交流を通して活動内容をしり、その活動を有田地方に広げる。

主なプログラム

１　シェイクアウト訓練
２　救急救命講習
３　防災・減災についての展示
４　防災を通して他校との交流を図る

概要

１　全校生徒対象に、予告なしで緊急地震速報を受信し、シェイクアウト訓練を実施した。
２　１年生を対象に、有田市消防の職員指導の下、救命救急講習を開催した。
３　１年生を対象とし実際に歩いて高台への避難経路を確認した。
４　熊野高校 Kumano サポーターズリーダー部が制作している「AED シート」を譲り受け、その内容を校内外に広げた。
５　保健委員会に所属する生徒により、文化祭期間中に防災展示を行った。

参加者感想文

・緊急放送が流れたときは驚いたが冷静に行動することができた。
・予告なしでも、落ち着いて行動することができた。
・避難経路を歩いてみると遠く感じた。
・万一のとき、電柱や電線などは大丈夫なのか不安になった。
・心肺蘇生の大切さがよくわかった。
・防災展示を行って、ハザードマップから、学校周辺が浸水地域だと再確認できた。
・避難生活になったときに活用できる避難グッズの作り方を理解した。
・熊野高校の活動が素晴らしいと思った。

成果と課題

【成果】
・通学の際、万一の事態を想定し危険箇所を確認することができた。
・予告なしでの緊急地震速報に対しても、シェイクアウト動作を確実にとることができた。
・日頃から防災に対する意識を持つことで命を守る行動が出来ることを知った。

【課題】

- 入学後できるだけ早期に、防災教育を実施する必要がある。（ハザードマップの確認・高台への避難経路の確認・シェイクアウト訓練）
- 避難所の設営や炊き出し、ロープワークなどの新たな取組も検討していきたい。
- 予告なしでのシェイクアウト訓練を学期に一度は実施し対応能力を高めたい。

有田中央高等学校

実施日時	令和６年１月２６日（金）
参加者	生徒７２名、教職員１３名、
実施内容	非常食体験・起震車乗車体験・パラコード編み・防災クラスマッチ

ねらい

１　近い将来発生するであろう災害等に備えて、防災への意識付けを行う。

２　災害発生時には、自らの安全を確保し、進んで地域の一員として役立つ人になる。

主なプログラム

１　非常食体験

２　起震車体験／パラコード編み

３　有中防災クラスマッチ

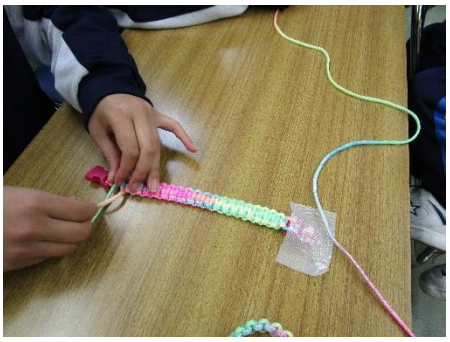
概要

１　非常食体験

アルファ米わかめご飯を、水で 1 時間で戻したものとお湯で 15 分で戻したものとを食べ比べた。

２　起震車体験／パラコード編み

各クラスごとに起震車に乗車し、待ち時間に、パラコード編みを行った。パラコードは普段は、アクセサリーやキーホルダーとして身につけて、災害時には様々な用途に使用出来ることを説明し、取り組んだ。



３　有中防災クラスマッチ

① 安心・安全搬送リレー

　棒と毛布で簡易担架を作成し、60 ㎏の肥料を載せて、４人で運び、７グループの合計タイムを競った。肥料を落とした場合は、＋10 秒のペナルティを付けた。

② 防災借り物リレー

　１月 17 日(水)放課後に防災有志生徒を集めて、防災グッズを作成した。

　当日は、各クラス ３ グループに分けて、お題に合った防災グッズを話し合いながら、集めてくる。３グループの合計タイムを競った。

③ バケツリレー

　各クラス１列に並び、カラーボールを入れたバケツをリレーし、最終の人に届ける時間を競った。

参加者感想文

・アルファ米わかめご飯を実際に食べて、おいしかったし、簡単にできました。非常時に備えて、買っておこうと思いました。

・起震車に乗って、家の家具の固定をしておかないと大変なことになると思いました。
・パラコードは、あんなに小さくて可愛らしいのに、ひもを解くと、実用性が高く驚いた。こういうのも一つあるだけで、災害時だいぶ変わることがあると思った。
・棒と毛布だけで、６０㎏を持ち上げられるなんて驚いた。
・防災借り物リレーは、ただ取るだけじゃなくて、自分たちで考えて物を取ってくるというのが、難しくて、楽しかったです。
・災害って怖いけれど、みんながー丸となって復興しようとなれる時でもあるんだなと思いました。
・起震車が怖かった。石川の人たちは、本物を体験したんだなと思った。南海トラフがきてほしくない。

成果と課題

【成果】

今回の防災スクールは、能登半島地震の直後ということもあり、生徒たちは、災害はいつか自分の身にも降りかかるという気持ちで取り組めていた。感想でも、「南海トラフが怖い」という言葉が多く見られた。

防災クラスマッチについては、ゲーム性を取り入れることで、防災に生かせる知識をより身近に、深く考える機会となった。中でも、防災借り物リレーは、グループで「電気ガスがないけど料理がしたい時に必要な物」というお題について話し合う姿が印象的であった。みんなで話し合うことで、より防災に対しての意識が高まったと考える。

また、防災グッズとして、パラコードを各自持ち帰っている。非常時には、使用する生徒が一人でも多くいることを願っている。

【課題】

１年生にとっては、インターンシップ終了直後だったので、かなり疲れている生徒がいたこと。また、午後からの時間設定であったので、駆け足に全てのプログラムが進んだことが課題である。もう少し内容を減らすなど、工夫して深く思考させたいと思った。

有田中央高等学校清水分校

実施日時	① 令和５年　８月２５日（金）２限～４限 ② 令和５年１１月　２日（木）２限
参加者	① 生徒３名、教職員８名、保護者１名　計１２名 ② 生徒３名、教職員８名　計１１名
実施内容	① 防災スクール「出張！減災教室」 ② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

ねらい

①　「土砂災害を知る」では、実験や実際の動画等を見ながら、土砂災害の起こり方などを学ぶ。「紀州大水害を知る」では、当時の清水分校に関連する被害状況なども学ぶ。「土砂災害から身を守る」では、生徒と保護者が相談して避難までのタイムラインを作成し、防災意識を高める。

②　地震発生時にそれぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとるなど、適切な対応行動を身に着けるとともに、日頃から地震に対する防災意識を高める。また、土砂災害について、清水周辺は山地であり、身近に起こりえる災害であるため、土砂災害について正しい知識、備えを身につける。

主なプログラム

①　和歌山県土砂災害啓発センター「土砂災害に関する防災学習」を実施

「土砂災害を知る」「紀州大水害を知る」「土砂災害から身を守る」

②　「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

シェイクアウト訓練、避難誘導、救護体制の訓練、「世界津波の日」「稲むらの火」に関する講話

わかやま土砂災害マップの確認、避難所マップの確認、避難カード記入

概要

① 和歌山県土砂災害啓発センター「土砂災害に関する防災学習」を実施

・「土砂災害を知る」では、「地滑り」「土石流」「崖崩れ」のメカニズムを学習した。

・小型扇状地模型実験、雨量計、地すべり実験により理解を深めた。

・「紀州大水害を知る」では、清水分校の被害状況を知ることで身近なこととして学習した。

・「土砂災害から身を守る」では、地域の土砂災害警戒区域を確認し避難タイムラインを作製した。

② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

地震発生時の身を守る行動、避難経路の確認を行い、緊急地震速報試験放送により実際にグラウンドに避難。その後、講話により「世界津波の日」「稲むらの火」の由来についての学習をした。また、わかやま土砂災害マップで清水分校周辺の状況を確認、清水分校体育館が避難所となっていることを確認し、どのような行動を取るべきかを学習した。

参加者感想文

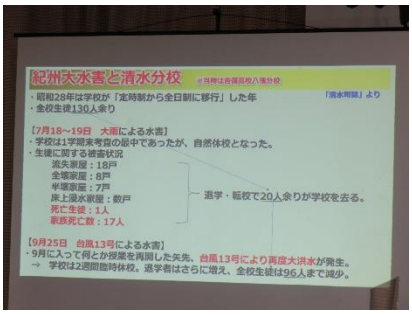
・自分の家は高所にあるので安全だと思っていましたが、ハザードマップを確認すると、土砂災害の恐れがあるとわかり、避難の事を考え災害に備えたいと思いました。

・いつ、どこで土砂災害が起こるかわからないので、家族で対策をしていきたいと思いました。

・土砂災害の被害をどうすれば小さくできるかを考え、それを実行していきたいと思いました。

成果と課題

【成果】防災スクールでは、土砂災害（土石流、地すべり、がけ崩れ）のメカニズムを学び、地域のハザードマップを確認し、保護者と相談しながら避難のタイムラインを作成することができた。また、紀州大水害については、清水分校の被害も紹介されたため、より身近な問題として考えることができた。地震・避難訓練では、過去に避難訓練の数日後、実際に地震が起こったこともあり、より一層主体的に取り組むことができた。学校がある清水地区は、山間部に位置し、土砂災害は、身近に起こりえる災害であり、清水分校体育館が避難所になっていることから、生徒たちは、自分のこととして考えることができたようだ。



【課題】山間部のため津波は想定外であるが、土砂崩れや路面崩壊、倒木による交通の遮断や、電柱や電線の損壊による停電の被害は十分予想される。過去には、大きな台風の影響で、有田川町の山間部で停電が長期間続き、分校の生徒の中には１０日以上停電状態だった者もいた。学校のある地域は比較的早く復旧したが、電話・インターネットはもちろん携帯電話も不通になり、生徒や有田中央本校との連絡もできなかった。災害後の状況に対応できる体制づくりが必要である。令和５年１月２５日には、大雪のため清水地域の道路が全面通行止めとなった。この通行止めは、１日で復旧したが、冬季の雪に対する備えも必要である。また、防災スクールは保護者も参加したが、実際に体育館が避難所となった場合の協力体制も課題である。

耐久高等学校

実施日時	令和６年　３月　１４日（木）
参加者	生徒１７９名、教職員１２名　計１９１名
実施内容	湯浅広川消防組合の指導による各種防災実技訓練

ねらい

１．高校生の防災意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を目指す。
２．関係機関と連携し、防災・減災に関するより専門的な知識を習得する。

主なプログラム

・開講式
・実技訓練
　１．ロープワーク
　２．起震車による体験
　３．救助袋による降下訓練
　４．AED心肺蘇生法
　５．タンカでの搬送
・閉講式
・HR教室にて感想文

概要

体操服に更衣の上ハンドボールコートに集合して開講式を行う。学校長挨拶・湯浅広川消防組合よりの講話のあと、上記5つのプログラムを湯浅広川消防組合指導の下、クラス単位で各種目30分間のローテーションで実施する。実技訓練終了後、閉講式にて湯浅広川消防組合の講評を受け、HR教室にて感想文を書く。

開講式

起震車による体験

ロープワーク

救助袋による降下

AED心肺蘇生法

タンカでの搬送

参加者感想文

１年２組　生徒

今日の防災スクールを体験して感じたことは、地震大国である日本に住んでいる人々は常に災害に対しての意識を持っておくことが大切だと感じました。今日まで生きていた中で大きな地震を体験したことがなく、今回の起震車を通してどのくらいの揺れなのか実際に体験することができました。今回は車の中で、何も落下物がない中での体験でしたが、実際に地震が起こると、家の中にあるありとあらゆるものが落下して自分を襲ってくると思うと、自分の身をきちんと守る知識と行動が大切になってくると改めて感じました。また、災害が発生したときに、自分の事だけを考えてしまうと、周りにいる他の人を助けることができないと思いました。なので、もし災害が起こったときには一度冷静になって今日学んだ知識を生かし、共に助け合う共助も大切になると思いました。これから起こるであろう災害に備えて、日々の生活でも防災について意識していくことが大切だと改めて認識しました。

１年３組　生徒

今日は、防災スクールを体験して、とても意味のある一日となりました。５種類の体験の中で特に心に残っているのは、初めて体験した救助袋による降下訓練と、AED心肺蘇生法です。救助袋による降下訓練は、３階から１階まですぐに避難できるけれど、勇気が必要でした。そして、いざ降りてみると、スピードが速くて驚いたと同時に楽しく感じました。この方法で助かる命が多くあると思うと、本当にすごいなと思いました。AED心肺蘇生法は、小中学生の時に体験したことがあったため、復習として体験しました。消防士の方に心臓マッサージが上手と褒められ、とても嬉しかったです。

私はなりたい職業がまだ決まっていません。体を動かしたり、人を助ける仕事に就きたいと

考えているため、消防士になるのも一つの道だと思いました。また、災害が起こった時、率先避難者になると共に、地域の人々を助けられるようになりたいです。

１年４組　生徒

今日は防災スクールの体験をさせていただいて、ありがとうございました。みなさんの説明は分かりやすくて、色んな防災のための知識が深まりました。今までしたことのある体験もありましたが、未体験のものもあり、防災のために多くの活動をしているんだなと思いました。最近は地震などの自然災害が各地でたくさん発生しているので、今日は防災体験がたくさんできてよかったなと思います。自然災害が起こったときでも、自分が助かるための行動や、相手を助けるための行動があり、どちらも勇気や適切な判断が必要だなと感じました。僕は実際に大きな地震で避難したり、倒れている人がいてその人を助けるために行動したりする経験がないので、もしそんな事態が起こったときにはできるようになりたいです。和歌山県は今後、南海トラフで大きな地震が来ると言われているので、常に気を引き締めて第一に自分の命を守る行動をし、防災スクールで体験したことをいかせるようにしたいです。

成果と課題

目指す生徒像として、

①災害に対する危機意識を持ち、防災・減災に主体的に取り組む。

②災害発生時に自分の命を守るとともに、直後の救助活動に取り組む。

③災害後の活動に積極的に取り組む。

以上の３つを柱にして取り組んでいる。計画的に防災教育が行われ、生徒たちに防災・減災を自分事としてとらえさせ、高校生として何が出来るかを考えるようになってきたことが成果としてあげられる。今後、どのように地域との連携を図っていくのかを検討し、行動に移せる体制づくりが課題である。

耐久高等学校定時制

実施日時	令和5年11月2日（木）
参加者	生徒14名、教職員6名　計20名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難訓練、新聞紙トイレ作り、アルファ米試食等

ねらい

避難訓練を通して地震・津波の災害の際に、対応できる方法を学ぶ。

主なプログラム

1　シェイクアウト訓練
2　避難訓練
3　新聞紙でのトイレ作り
4　アルファ米試食
5　防災バッグの中身を考えてみよう
6　教員による東日本大震災の話

概要

1　落下物の危険から身を守るという想定で、各教室で全員が机の下に入った。
2　停電が起こったとの想定で、校内の避難経路の電気を消し、懐中電灯を持った担任を先頭に屋上まで全員で避難した。
3　動画を見ながら教員の指導の下、新聞紙で簡易トイレを作成した。
4　非常食のアルファ米を調理し、試食した。
5　防災バッグの中身をプリントを使って考えた。
6　東日本大震災を経験した教員が当時の被害状況や教訓について映像を使い、説明した。

参加者の感想

・シェイクアウトの後、暗闇での避難を体験したのは良い訓練だった。

・新聞紙でトイレを作ったのは初めてだったのでとても勉強になった。アルファ米の試食も貴重な体験だった。

・防災バッグは常に用意しておかなければならないと強く感じた。東日本大震災については、直接先生から生々しいお話を聞けたので、地震や津波の恐ろしさを改めて知ることができた。

成果と課題

【成果】今回、新しい試みとして、シェイクアウト後に屋上まで避難した。全員スムーズに避難することができた。また、その他のプログラムにも生徒たちは熱心に取り組めており、防災意識が非常に高まった。この訓練で災害時に対応するための方法を生徒・教員ともに学ぶことができ、良い経験になった。

【課題】今回は津波を想定した垂直避難を校内で実施した。今後は校外の避難経路を通って高台にある避難所まで避難する訓練も行っていきたい。在学中に校内、校外両方でのさまざまな訓練を体験し、防災に対する知識を身につけることで常に防災意識を持って行動できる資質を育むことが必要であると考える。

日高高等学校・附属中学校

実施日時	① 令和５年　５月　１日（月） ② 令和５年１０月２６日（木） ③ 令和５年１１月　２日（木）
参加者	① ８２８名（中高生徒７７８名　中・高職員５０名） ② ８２６名（中高生徒７７６名　中・高職員５０名） ③ ８２６名（中高生徒７７６名　中・高職員５０名）
実施内容	① 避難訓練　② 防災スクール　③ シェイクアウト訓練

① 避難訓練

ねらい

大地震や津波の発生時、迅速かつ安全に対応できる行動力の育成を図るとともに、校内外の避難経路を確認する。

主なプログラム

１ 緊急地震速報からグラウンドへの避難
２ グラウンドから校外への避難
３ HR 教室で感想文記述
４ 避難完了時刻報告

概要

１ 生徒には事前連絡せず、緊急地震速報を流し机の下に避難させる。その後、授業者は避難経路を誘導する。（避難時間計測）
２ 点呼確認後、教員引率のもと、校外で津波が発生した場合の避難場所へ避難する。（避難時間計測）
３ HR 教室で成果と課題について記述する。
４ 学年別の避難完了時間を報告する。

参加者感想文

・片道 30 分かかったけど、実際災害が起こったときに間に合うのかと思った。運動靴に履き替えたから何とか歩けたけど、ローファーだと大丈夫なのかと思った。
・細い道や橋などがあり、実際地震が起きたら周辺の橋や壁が崩れて通れなくなると思った。その為、日頃から周辺道路を熟知しておく必要があると思った。
・実際、災害があれば避難所まで、走ったり、飛び越えたりしていかなければばらないため、普段からそのための体力をつけおく必要があると感じた。

成果と課題

【成果】

・今年度は、生徒が校外に所在している時を想定して校外避難訓練を行った。生徒は、避難する方面は元々知っていたが、避難場所までの細かなルートを知ることで、危険箇所や迂回ルートを考える良い機会となった。
・緊張感を持たせるため、生徒には事前に連絡せず避難訓練を実施した。綿密な打ち合わせのもと、充実した訓練ができた。

【課題】

・避難完了時間が、津波到達想定時間を少しオーバーしたため、来年度は時間内の完了を目指す。

・生徒は、右側通行を基本としていたが、場所によっては、歩行渋滞が起きるため、教員側の臨機応変な指導が必要である。

② 防災スクール

ねらい

大災害はどの地域にも起こると想定し、いかなる状況であっても、正しい判断と的確な行動によって、自らの命を守ること、人を助けることが期待される、そのための実践力を高める。

主なプログラム

1　自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール（高校１年生）

2　御坊市消防本部による防災スクール（高校２年生・附属中学生）

3　きいちゃんの災害避難ゲーム ～避難所運営ゲーム～（高校３年生）

概要

1　『心肺蘇生法』・『土嚢積み体験』・『簡易担架・止血法』の３展開で実施。心肺蘇生法は１分間に 100 回のリズムで行う。身近にあるものを利用した簡易担架作成や止血法。土嚢積み体験など、漠然と手法を学ぶのではなく、回数や時間など、理論的に効果を理解して活動する。

2　『消火訓練』・『煙体験』・『防火についての講話』の３展開で実施。消火訓練は消火器の扱い方や消火をする疑似体験を行う。煙体験は口や鼻をハンカチや布・服などで覆う。防火についての講話では、地震発生時に連動して起こりうる火災に対しての備えを理解する。

3　『きいちゃんの災害避難ゲーム』では、地震発生時の避難所運営を体験し、咄嗟の場合にも判断できる状況判断力を養う。

参加者感想文

・簡易担架は自分たちが着ている服でもつくれることを知った。

・心肺蘇生法では、圧迫時の力加減が難しく、同じリズムで続けなければならないため、命を助ける信念が必要だと感じた。

・消化器を使うにあたって、風下にいるときや横風が強い日は、使い方を注意しなければならない。

・煙体験では、消防の方が周囲に居てくれたこともあり、スムーズに進めたが、実際の煙は真っ黒で、前がほとんど見えずに、息もしづらいため、パニックに陥るかもしれない。

・実際の避難所運営では、事前にどんな人がいるのかを知っておくことで、各部屋をどう使用すべきかが変わってくると感じた。

・不審者の目撃情報があった時の対処として、正解は避難者が見回るであったが、もし不審者を見つけた時に、うまく対処できるのかと不安になった。

成果と課題

【成果】

命を守るための知識理解と、意識改革を趣旨とし、最も重要なのは、災害が起こって当然という心構えと、そのための準備が必要であることを学んだ。

（1 年生）

災害が起こって、傷病者に対して命をつなぐための直接的なアプローチ（心肺蘇生法・止血法・簡易担架・土嚢積み体験）を学んだ。

（２年生）

火災が起こった時の避難方法（煙体験）、消化訓練について具体的に学んだ。

（３年生）

災害時の迅速な避難行動や、日頃からの備えの重要性、円滑な避難所運営のために必要となる協力体制を学んだ。

【課題】

煙体験の際、ひとりあたりの体験時間が非常に短かったため、複数人で体験したり、回数を増やすなどの工夫が必要であった。

③ シェイクアウト訓練

ねらい

緊急地震速報が発表された時、それぞれの場面に応じた適切な行動を身につける。

主なプログラム

授業実施場所（教室・グラウンド・体育館等）でのシェイクアウト訓練

概要

午前１０時に、放送室から緊急地震速報を流す。職員・生徒とも（頭部を低く保護して動かない）をテーマにして、机の下など安全な場所に避難する

日高高等学校　定時制課程

実施日時	令和５年７月１８日（火）、９月４日（月）、１１月６日（月）
参加者	生徒１６名、教職員９名　計２５名
実施内容	被災者救助(救急救命)訓練、火災避難訓練、地震体験車「ごりょう君」、津波を想定した避難訓練と避難経路確認、ライフジャケット脱着訓練

ねらい

１、災害についての知識を身につける
２、災害から自らの命を守るとともに、被災者を救助する行動力を養成する
３、災害から生き抜く力を身につける

主なプログラム

１、火災、津波に対して各状況を設定し、避難訓練・避難場所の確認を行う。また被災者の救助のための救急救命訓練を行う。
２、起震車による地震体験訓練
地震体験車「ごりょう君」に乗って、３方向の揺れと震度７までを段階的に体験する。
３、ライフジャケット着脱訓練

概要

１、緊急時に人命救助にあたるための心構え、南海・東南海地震への備えと、ライフジャケットの正しい着用方法の体験から被災時にとるべき行動を確認した。
２、在校時に災害が起こった時の避難場所までの経路を確認するとともに、在宅時の避難場所や家族との連絡方法を確認した。

参加者感想文

- AEDや心肺蘇生法を実際教えてもらいながら体験してみて、わからなかったことを知ることができた。
- 地震体験車に何度か乗ったが、その都度、地震の怖さを再認識できてよい。
- 自分でしっかり判断して、絶対に生き残ってやろうと思った。
- １人１人が自分の命を守ることに気を付けたい。

成果と課題

【成果】

- 毎年、心肺蘇生法や起震車による地震体験を行っており、年々、生徒達の災害に対する意識は高くなってきている。より具体的な状況を想定し、そのとき取るべき行動を考える機会として有効に活用していきたい。
- 生徒は、災害発生時に自分の身を守ること、被災者を助けること、ボランティアとして人々をサポートすること等について、一つ一つ自分たちのとるべき行動や、担うべき役割を確認できたようである。また、家族との連絡方法や落ち合う場所を決めておくことの大切さも認識したようである。
- 生徒は、巨大地震に伴う津波発生時に、ライフジャケットを着用することの大切さを理解し、実際に着用してみることで緊急時の安全対策を実感できたようである。
- 大川小学校の教訓を映像を通して学習し、防災に対していかに当事者意識を持つことが大切であるかを学んだ。

【課題】

- 夜間定時制であるため、暗闇の中での避難や安否確認など、想定される状況についてもっと意識させるような取組を行っていくことが大切である。
- 生徒は、訓練でも真面目に取り組んでいるが、目的の理解が不十分で、真剣味に欠ける部分があることも否めない。いかに自分のこととしてとらえ、より高い意識で訓練に臨ませるかが今後の課題である。

日高高等学校中津分校

実施日時	令和５年１１月８日（水）
参加者	生徒４５名、教職員８名　　計５３名
実施内容	自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール

ねらい

自然災害に備えるだけではなく、日常生活における緊急対応を含め、防災意識を高め、地域防災の担い手として行動し、社会貢献できる高校生の育成を目指す。

主なプログラム

１　止血法講習　　２　ロープワーク講習
３　救急法講習（心肺蘇生法・ＡＥＤ）
４　担架づくり、搬送講習
５　学年別対抗ロープワーク競技会
６　感想及び振り返り

概要

分校体育館で全校生徒および教職員を対象に自衛隊員から講習を受ける。

参加者感想文

- ロープワーク講習が印象に残った。身近なロープで簡単にできるので、覚えておきたいと思った。
- 防災教育で最も印象に残ったことは、人々を自分が助けることができることを知ったことです。
- 止血法、心臓マッサージ、ＡＥＤの使い方です。実際にそういう場面に出くわす場合もあるかもしれないので、しっかりできるようにしようと思います。
- １年に一度は、ＡＥＤの使い方などを教えてくれるので良いと思いました。
- 災害が起きたときや、倒れている人がいれば、今日学んだことを一つでも使えるようにしたい。ＡＥＤの設置場所を日頃から把握したい。
- 楽しく学べたので良かった。

成果と課題

【成果】

現３年生は、１年次に日高川防災センターときいちゃん避難所設営ゲームを行い、昨年度からは自衛隊協力のもと計画的に防災意識を高め、防災に対する知識・技術を習得することができた。本校の生徒の実情にあった体験型防災教育を行うことで成果があった。災害時には、まず自分の身の安全を確保した上で、地域と連携し活動ができるようになったと思われる。

【課題】

生徒の感想を見てみると、多くの生徒が今回の防災スクールの意義を理解し、研修を受けることができ、好評であった。

ただ、運営上１１月は学校行事が多く、来年度は行事を見直したい。過去には、中津中学校と合同で行っていたので、来年度は地域を含めた防災スクールにしたい。

紀央館高等学校

実施日時	① 令和５年　４月２６日（水） ② 令和５年１１月１５日（水）
参加者	① 生徒１５９名、教職員１４名　計１７３名 ② 生徒４２５名、教職員４８名　計４７３名
実施内容	① 地震・津波　避難訓練 ② ２．３年次生 シェイクアウト訓練　　「津波防災の日」等についての学習 避難場所の確認（避難カードの確認を含む。） １年次生 簡易担架・止血法、ロープワーク、心肺蘇生法

ねらい

１、地震による津波や火災に対する知識を確認し適切な行動がとれるようにする。

２、地震による津波や火災に対して適切な避難行動がとれるようにする。

３、災害発生時における不測事態の対応要領について体験型を通じて見識及び知識を醸成する。

主なプログラム

① 津波避難訓練

・参加者　１年生１５９人　教職員１４名

・開催日　令和５年４月２６日（水）

・取組　　大地震が発生し、その後、津波が発生したと想定し、避難行動の訓練を行う。

②「津波防災の日」等についての学習

・参加者　全学年４２５人　教職員４８名

・開催日　令和５年１１月１５日（水）

・取組　　シェイクアウト訓練
「津波防災の日」等についての学習
避難場所の確認
簡易担架・止血法、ロープワーク
心肺蘇生法

概要

① 津波避難訓練

大地震が発生し、大津波警報の発令を受け、本校北の高台（御坊市湯川町富安方面）に避難する場面を想定して訓練を行った。クラス単位で担任の指導のもと、実際に歩いて想定された避難経路を確認した。避難場所や避難経路を確認し、円滑に避難できるようにした。また、八幡山や亀山等、標高４０ｍ辺りを中心に、学校周辺の地形を確認した。

② 「津波防災の日」等についての学習

本校文化祭のため、県内の一斉訓練には参加できず、後日、単独で行った。

２、３年次生は大地震が発生したと想定して、身の安全を守るため、シェイクアウト訓練を行った。また、揺れが収まってから速やかに避難できるように窓や戸を開けておくことを心掛けた。その後、全校放送により津波の恐れがある地震、津波の恐れのない地震、火災が発生した場合について、避難場所や避難経路を確認した。放送終了後、各クラス単位で担任、副担任の指導のもと、気象庁制作の映像教材を使用して津波・地震に関する学習を行った。最後に、避難カードを作成し、家庭でも避難場所の確認をしておくよう指導した。

１年次生は自衛隊御坊地域事務所の協力を得て、防災教育（簡易担架・止血法、ロープワーク、心肺蘇生法）を実施した。

参加者感想文

- 避難の手順がよく分かった。実際に歩いてみて、避難するまでにどのくらい時間がかかるか体感できた。思ったより時間がかかると感じた。
- 地震が起これば焦ってしまうだろうが、落ち着いて行動しようと思った。無事に、はやく逃げられるよう、ハザードマップ、防災グッズの確認や正しい知識の理解が大切だと感じた。
- どのような災害がおこるかで、避難の仕方が違うことがわかった。なぜ違うのかも理解することができた。家族で災害時の避難について、話をしておこうと思った。
- 高校生の私たちがリーダーとなって、率先して行動したいと思った。家族と避難場所について話し合い、災害発生時に備えて準備をしておこうと思った。
- 災害は恐ろしいが、正しく理解し対処することで、命を守ることがわかった。いつ災害がおこっても慌てないために、準備をしておこうと思う。

成果と課題

①津波避難訓練

新入生に学校周辺の地理状況を認識させ、避難場所の確認をすることができた。訓練は学校周辺の歩道がある安全な経路を歩き、交通量が多くなる地点からは確認だけを行った。

入学してすぐに避難経路を確認することや、実際に歩くことで経路や時間を体感することが大切であると考える。次年度以降も継続していきたい。

②「津波防災の日」等についての学習

地震発生時、シェイクアウト行動や、避難のため戸を開ける等、迅速な対応ができた。防災学習がすすみ、生徒たちの知識や理解度も十分高まっているが、災害への再認識をする機会をつくることは、たいへん有意義だと考える。

今年度はじめての取組として、自衛隊の協力を得て防災教育を実施した。専門家の指導の下、実際に体験することで、災害時や緊急時の対応について実践力が高まるとともに、非常時に対する意識が高まった。次年度以降も引き続き実施していきたい。

南部高等学校

実施日時	令和５年１１月２日（木）　　５限、６限
参加者	生徒２７５名、教職員４０名、中学生６０名　計３７５名
実施内容	避難訓練（シェイクアウト避難訓練） 心肺蘇生法、ロープワーク、止血法・簡易担架作成

ねらい

「県高校生防災スクール」 事業の一環であり講義や訓練を通して高校生の防災意識を高め、地域防災のリーダーとして災害時に活動できるような生徒の育成を目指す事を目的とする。

１　大地震や津波の発生時、迅速かつ安全な行動力を養成する。

２　自然災害に備えて防災意識を高めるとともに、地域防災の担い手として社会に貢献できる人材の育成を目指す。

３　本校生徒の防災への意識を高める。

主なプログラム・概要

13:30		14:20	14:30	15:20
1.2年生	授業	休憩	避難・LHR	HR・放課

13:30		13:40	14:00	14:05	14:25	14:30	14:50	15:05	15:20
3年生	A	集合 紹介 説明	止血法・担架	休憩	心肺蘇生	休憩	ロープ	結言	各教室にて アンケート	HR 放課
	B		心肺蘇生		ロープ		止血法・担架			
中学生	C		簡易担架		止血法		ロープ		中学校へ	
	D		ロープ		簡易担架		止血法			

参加者感想文

・自衛隊の方から大地震の話を聞いたり、ロープワークや簡易担架づくりなど大変役に立ちました。

・中学生と一緒に訓練できたことがよかった。

・避難訓練では、この地域には高台が少ないため町全体で避難経路を確認する必要性を感じた。

成果と課題

【成果】本年度は、中学校と合同で実施しました。また、自衛隊の方々から教わる機会となり、日頃の防災意識を高めることができ、一人一人が協力し合い、積極的に取り組むことができた。 どの体験も災害時に役立つものばかりであったので、生徒にとっては非常に貴重な機会となった。

【課題】本来であれば、地域の方々と共に防災スクールで共に学ぶ時間としたかったが、日程の調整等が困難であった。
小・中・高・地域住民で一緒になって可能な範囲で連携を進めていく必要がある。

南部高等学校 龍神分校

実施日時	令和５年５月１９日（金）・令和５年１１月２日（木）
参加者	生徒２３名、教職員１１名　計３４名
実施内容	非常時における救急救命講習、地震等による災害避難訓練

ねらい

非常時における救急救命講習と、地震による災害を想定した避難訓練を体験することで、防災への意識を高め、災害時への心構えを育む。

主なプログラム

１　救急救命講習
２　地震避難訓練

概要

１　田辺消防署 龍神分署 の職員より、「心肺蘇生法」「ＡＥＤ使用法」を中心に、災害時等における救急救命の訓練を受ける。
２　緊急時に率先して動ける講習を受ける。
３　緊急地震速報（訓練）による避難訓練を行う。放送を受けて、安全確保からグランドに避難する一連の行動を確認する。
４　「防災ハンドブック」を使い、緊急時の避難行動における注意点や、避難カードや和歌山県防災ナビの使い方を学ぶと共に、広く防災について学習する。

成果と課題

【成果】

消防士の方から実際に講習を受けることで、緊張の中で器具の使用方法を学んだり、心肺蘇生を体験することができた。

【課題】

防災ハンドブックを用いたが、さらに学習を深めるために防災啓発の DVD 等を視聴することを今後検討したい。

田辺高等学校・田辺中学校

実施日時	令和５年 11 月２日（木）
参加者	生徒 357 教職員 14名、計 371　　＊高１中１参加者
実施内容	・「重ねるハザードマップ」を利用したリスク管理(避難など) ・紀伊田辺駅での避難訓練(JR 西日本協力)　・簡易トイレづくり ・防災講演会(和歌山気象台長による講演)　・避難訓練

ねらい

１　紀伊半島は、地震・津波だけでなく、台風などによる土砂災害のリスクも大きい地域であることを認識し、自分の住んでいる地域でどのようなリスクがあるかを確認し、適切な避難行動などをとることができる。

２　中学生や高校生が避難時や避難所で出来る役割を理解し、率先した行動をとる。

主なプログラム

・１限：「土砂災害」「避難所のトイレ」

・２限：全校避難訓練

・３限：防災講演会

※並行して電車通学生を中心に JR 西日本による避難訓練を行う。

概要

◆1 限：「土砂災害」「避難所のトイレ」

①土砂災害のリスクと避難

学校作成の土砂災害の映像（５分）を放映し、土砂災害の恐ろしさを学んだ。国土交通省の「重ねるハザードマップ」を用いて、本校周辺の土砂災害のリスクを把握した。

② 避難所のトイレ事情と簡易トイレの重要性

内閣府の「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」を用いて、避難所のトイレ事情と健康リスク、簡易トイレの重要性を確認した。また、和歌山大学防災教育センター作成のマニュアルによる簡易トイレづくり（約 800 個）を行った。

◆2 限：全校避難訓練

地震発生時の避難訓練と大津波警報発令時の高所避難訓練を行う。

◆3 限：防災講演会　和歌山気象台 山本善弘台長

「自然災害から命を守るために～地震や津波、大雨に備える～」

◆並行して JR 西日本による防災スクール

発災時に乗務員だけでは対応できないので、高校生も率先者として避難はしごの設置や乗客の誘導に協力することの意義を学ぶ。

参加者感想文

・自分の住んでいる地域がどのような災害リスクにさらされているか知ることができ、防災意識が高まった。

・災害の際、まさかトイレが問題になるとは想像もしていなかったので、簡易トイレの作り方を学ぶことができてよかった。

成果と課題

【成果】地震、津波、土砂災害など様々な災害リスクを認識するきっかけとなった。

【課題】「重ねるハザードマップ」の取り組みに差が見られたので、もう少し時間があればよかった。

田辺工業高等学校

実施日時	令和５年 12 月 14 日（木）
参加者	生徒 119 名
実施内容	段ボールベッド作り、避難所ライフハック、応急処置　等

ねらい

災害発生時に生徒達が自らの判断で迅速に避難し、対応できる力を身につけさせる。

主なプログラム

１　講演

２　段ボールベッド作成、避難所ライフハック（防寒対策）、応急処置（止血法）、モールス信号

概要

１　災害時における自衛隊の活動について全体で聴講

２　各クラスで３班に分かれ、各パートで体験学習

参加者感想文

・モールス信号を覚えた。使う機会はないかも知れないけど本番のために覚えておきたい。

・段ボールベッドの寝心地が意外と良かった。

・ビニール袋で防寒着を作ったけど、結構温かかった。

成果と課題

【成果】

・３パートで分かれて行うことで、効率よく体験を行うことができた。

・実践的な活動をとおして、生徒たちに危機感を持たせることができた。

【課題】

・各班とも体育館で一斉に行ったことで、それぞれの声が反響して聞き取りづらい場面があった。

・活動内容の都合上ゴミが大量に発生したため、事前打合せをしっかりしておくべきだった。

神島高等学校

実施日時	令和5年１１月　2日（木）
参加者	生徒７００名、職員５０名、計７５５名　（文里町内会　８０人）
実施内容	津波避難訓練

ねらい

近い将来発生が予想される大地震や大津波から、安全に“逃げ切る！”ため、生徒各自による速やかな避難行動への意識を高める。

主なプログラム

１　津波防災啓発動画視聴
２　シェイクアウト訓練
３　避難経路を各自で選択しての避難訓練
４　振り返り

概要

１　事前準備として、５限目に以下の①～③を行い、６限目の訓練後にアンケートを各自で入力するように指示する。
①避難訓練内容・注意点と地図で避難経路と避難先田辺高校下グラウンドの確認をする。
②気象庁制作の津波防災啓発動画「津波に備える」を視聴する。
③地震と津波に関する簡単なクイズで認識を深める。

２　６限目に「大津波警報発令」と「避難指示」を放送し、各自が「てんでんこ」に田辺高校まで避難を行う。
【想定】最大津波高12m　5m到達時間16分
10m到達時間24分
〇担任は、生徒に安全な姿勢をとるよう指示。（シェイクアウト訓練）
〇生徒・職員は、正門または通用門から出て、各自速やかに田辺高校へ向かってかけ足で避難を開始する。田辺高校下グラウンドを目的地とする。
〇目的地の入り口にスポーツタイマーを置き、各自、時刻を確認する。
〇点呼が終わったクラスは、田辺高校からさらに避難が必要になった場合の二次避難場所（オークワ東山店）への経路を確認し、歩いて帰校する。
〇帰校後、アンケートをFormsに入力して終了。

参加者感想文

・本番は怖くて頭が真っ白になってしまいそうですが、自分の身を自分で守ることを意識したいと思います。
・本当に南海トラフが起きたとき、逃げ切れるように避難訓練をするのは大切だと思いました。
・避難経路を定期的に確認するのは大事だと思った。
・道のパターンやその道の危ない所を覚えておいて、行き止まりになってもすぐに違う道から逃げることが大事だと思った。
・津波の心配があるから、できるだけ早く移動することが大切だと思いました。
・想像より田辺高校までの距離が長くてびっくりしました。地震の際には、より早く、より高いところに逃げられるよう、近くのルートを確認しておきたいと思いました。

・先輩方がとてもまじめに避難しているのを見て、私たちももっとまじめに避難した方がいいと思った。避難経路が狭く、崩れそうな建物が多くあったので避難する際には気をつけたいと思う。
・人数が多く混みやすくて、実際に避難する時ぶつかったり倒したりすることがありそうだと感じた。道が狭いので塀が壊れて倒れてきたらすぐ道が塞がって戻らなければいけなくなりそうだと思った。
・実際は焦ったり走ったりするため狭い道は危険だと感じた。何分くらいで着けるか目安を覚えておくと良いと思った。
・自分の予想通りにいかないことも多く実際に体験してみて避難訓練の大切さがわかりました。
・すごく危険を感じた。学校で生徒が一斉に移動することになった場合の自分が進むルートの確認が必要だと感じた。
・スムーズに避難することができたと思う。実際におこったときも今日のようにあせらずに避難したい。
・危険だと思う道が多くて、実際に災害が起きた時に危ないと思った。
・それぞれのルートにメリットデメリットがあるから、どれが一番いいのか考えて避難したい。

成果と課題

【成果】

〇アンケートより

①教室から校舎の外に出るまでの移動はどのようにできましたか？

②今回の目的地（田辺高校下グラウンド）までの移動について、時間はどれくらいかかりましたか？

アンケートによると、校舎内の移動については、「スムーズに移動できた」と回答した割合が昨年度とほぼ同じで、「混雑し危険を感じた」が２４％から２１％へと減少した。

〇町内会より

今回は、学校の立地している文里町内会と相談の上、災害の発生時間を合わせて、同時に避難訓練を行うことにした。町内会の避難場所が９カ所あり訓練参加者が８０名ということで、特に一緒に行うことによる問題はなかった。

警察署の協力で５名の署員が来てくださり、安全に訓練を終えることができた。

【課題】

南海トラフの巨大地震が発生した場合の津波到達時間は、３mの波が１５分、最大１２mの波が２６分と想定されているが、避難に15分以上かかっている生徒が２５％と多いため、訓練を重ねることで、意識を変えていく必要がある。

避難経路には、狭い道が多く、民家や塀が迫っており、危険な場所が多いことを生徒は認識したようだ。迷ってしまう生徒や混雑してルート変更した生徒も何人かいたようで、日頃からルートを確認しておく必要がある。

４月当初には、新入生の避難経路の確認を実施した。海に近い場所にある本校にとって、津波避難訓練は必要不可欠であることから、来年度も訓練を計画している。

熊野高等学校

実施日時	① 令和５年１０月２９日（日）午前 ② 令和５年１０月２９日（日）午後 ③ 令和６年　３月１４日（木）・１９（火）
参加者	
実施内容	① 地震・火災避難訓練他（上富田町合同） ② 防災公演 ③ 救急救命講習

	生徒	教職員	その他	合計
①	565 名（高１・２・３・専１）	60 名	241 名	866 名
②	565 名（高１・２・３・専１）	60 名	０名	625 名
③	148 名（高２）	20 名	０名	168 名

概要

①熊野高校・上富田町合同防災訓練

上富田町役場・田辺消防署上富田分署・自衛隊・上富田中学校との連携による合同防災訓練も３年連続となった。まず各教室でシェイクアウト訓練をし、グラウンドへの避難訓練を行う。

今年は新たに土のう積み訓練の見学をした後、体験訓練として土のう作成・消火器の取り扱い・煙体験・担架搬送法・ロープワープを実施した。体育館では避難所開設訓練として、パーテーションの組み立てや展示が、調理室では業務スーパーによる炊き出しが行われた。また本校生徒から、『ＪＲきのくに線における大津波警報発令時の避難方法』について発表があった。

②防災公演

午前中の合同防災訓練に引き続き、午後は本校社会科教諭により歴史ライブ『稲むらの火』が始まった。和歌山県の偉人浜口梧陵の知恵に学ぶことで、地域防災の担い手となる意識を育むのが目的である。

Ⅰ地震とは何か、Ⅱ稲むらの火、Ⅲ防災のあり方の三部立で構成され、過去の事実に学び、今自分が出来ることを考えさせる内容であった。

③救急救命講習

２年生を対象に心肺蘇生法およびＡＥＤの操作方法に関する実技講習を受けた。毎年、田辺消防署上富田分署の隊員の方々からきめ細やかな指導を受けられる貴重な機会となっている。また、本校サポーターズリーダー部が作成したＡＥＤシートについても使用方法が部員から説明があった。

今年度は３クラスずつ２日間に分けて講習が実施され、全員が実技を行うということもあり、和やかななかにも緊張感の感じられる有意義な講習であった。

参加者感想

① 熊野高校・上富田町合同防災訓練

全体的な訓練を通して、災害が起こったとき、自分の安全も地域の人の安全も守って、高校生の自分が出来ることをしていかなければならないと思いました。そして担架や土のうなど１人で出来ないものは、その場にいる、いろんな人と関わり協力していくことも非常に大切になってくると感じました（高１女子）。

②防災公演

改めて地震や津波が発生した場合の避難所を家族と確認しておこうと思いました。誰かがやってくれるから大丈夫だろうではなく、自分が率先して家族や友人、地域の人々に声をかけていきたいと思います（高１女子）。

② 救急救命講習

僕は、もし目の前で人が倒れた時にどのような対応をすればよいか分かりませんでしたが、この講習を通してやり方を知りました。まず周りの安全確認を行い、そして倒れた人の意識や呼吸を確認し、なければ心臓マッサージやＡＥＤを使って心臓に血液を回らせることが重要だと分かりました（高２男子）。

成果と課題

今年度の上富田町との合同防災訓練は、昨年度と同様、地域住民に加えて上富田中学校３年生全員が参加し、大規模に行われた。地域と学校が一体となった訓練は、実際の災害時を想定する上で大変貴重な機会である。今年は新たに土のう訓練が加わり、コロナ開けで炊き出しが復活した。

防災公演は、普通の講演とは異なり演劇風に語りかけるもので、生徒にも楽しんでもらえたと思う。過去に学び、未来を望んで今を生きる姿勢が大切である。

今後、合同防災訓練は３年に１度となる見通しだが、生徒達が集中して取り組んでいけるように内容について新たな工夫を続けていく必要がある。

救急救命講習は、いざという時に落ち着いて行動するためにも、やはり定期的に講習を受けるべきであろう。高校生としてあらためて講習を受けることで、その知識や技術が定着し、地域防災の担い手としての自覚が生徒たちに広がる絶好の機会となった。今後も大切な講習として続けていきたい。

串本古座高等学校

実施日時	２０２３年　７月　１４日（金）
参加者	生徒５０名　教職員　８名　　計５８名
実施内容	避難はしご組み立て、津波避難、要介助者避難介助対処法

ねらい

１、多様な防災の知識を身につけ、さまざまな状況の災害に対応できる力を養う。

２、鉄道乗車中の災害時に生徒自身が地域の率先避難者となれるよう防災意識を高める。

主なプログラム

１、避難はしごの使い方

２、津波避難、要介助者避難介助など対処法

３、防災啓発ビデオ・防災クイズ学習

概要

１、避難はしご組み立て

列車内に備え付けられた災害時の車外への避難用のはしごの使い方を学んだ。

２、津波避難

列車乗車中に地震とそれに伴う津波が発生したことを想定し、避難はしごを用いた列車外への降車、および付近の高台への避難についてビデオ学習。

３、要介助者避難介助訓練

介助者と、要介助者が一緒に避難を行う際の注意点を学んだ。

４、防災啓発ビデオ、防災クイズ、感想文記入

参加者感想文

・電車内で災害が起きることを考えたことがなかったので、学ぶことができてよかった。

・電車内のドアコックの開け方、避難はしごの使い方を初めて知ることができた。

・普段電車通学なので、地震が起こった場合の避難の仕方がわかってよかった。

・率先避難者として自分のできることをしっかりと行い、一人でも多くの命を救うことができれば。

・目の不自由な人やお年寄りの人たちも一緒に逃げられるようにしたい。

・ビデオ学習により、南海トラフ臨時情報というものがあることを知り、物不足などの混乱が生じることを知った。非常食や事前の備え、家族での話し合いが必要だと感じた。

成果と課題

【成果】

本校は沿岸部に位置しており、南海トラフ巨大地震等でも津波による浸水被害、液状化現象等が予想される地域であることから、地震津波に関して日頃から関心を持ち防災教育を行っている。今年度は、JR 西日本との協力で、津波災害を想定した列車からの避難について学習を行った。本校には多くの列車通学生が在籍しており、列車を利用する生徒が災害発生時に地域の率先避難者となれるよう避難はしごの利用訓練や要介助者への避難介助の対処法を学んだ。また、ビデオ学習、防災クイズにより、南海トラフ巨大地震への備えについて学習した。生徒からは「電車内で災害が起こることを考えたことがなかったので良い機会となった」「率先避難者となって避難したい」などの感想が寄せられた。

【課題】

本校の立地から、巨大地震発生時の対応について不安を感じている職員・生徒も多い。このため今年度は 6 月 22 日に串本町役場防災担当職員を講師に迎え、本校職員を対象に防災研修を行った。全職員に串本町ハザードマップを配布し、本校が 3～5Mの浸水域にあり、1cm 以上の津波が最短 8 分で到着する場所にあることを確認した。また、串本町内の県道・国道の 55%が 30ｃｍ以上の浸水、21%で液状化が起こると予測されている。大変深刻な立地条件であることを全職員で共通理解した上で、よりリアルで実際的な避難訓練を地域住民と一緒に行うことを計画している。

新宮高等学校

実施日時	令和５年１１月１０日（金）１３：１０～１５：４０
参加者	生徒１９９名、教職員１３名　　計２１２名
実施内容	ライフハック、ロープワーク、心肺蘇生法、AED 取り扱い、搬送法、応急手当　等

ねらい

県教育委員会主催の「県高校生防災スクール事業」の一環であり、講義や訓練を通して高校生の防災意識を高め、地域防災リーダーとして災害時に活動できるような生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

１　事前学習（消防署、自衛隊）
２　自衛隊によるライフハック、ロープワーク
３　消防署による心肺蘇生法、AED 取り扱い、搬送法、応急手当

概要

- 事前学習は学年全員で受講。当日の説明を含む防災全般の講義を聞いた。
- 事前学習の後、学年生徒が４つの班に分かれて消防署、自衛隊による講習に参加した。

参加者感想文

- 「地震が起きたら助けてもらう」ではなく、まずは自分で自分を守ることが大切だと感じた。
- 自助、共助、公助が大切だと思った。また、災害時、どこかで頑張ってくれている人がいることを覚えておこうと思った。
- 災害時、電気がない状況で過ごすのは難しい。懐中電灯と袋を使って、より明るくできることを知ることができた。
- AED にはやり方が書いているけれど、それを見ながらだと時間がかかるので、今日のように体験することが大切だと感じた。
- ロープの色んな結び方を組み合わせたら、避難するときなどに使えそうだと思った。
- 処置を聞くと、難しそうだと思っていたけれど、意外と簡単にできた。身近にあるものでできたのでいざというときに使えると思った。
- 人数が少なくても人を運べることを知った。今日学んだことをいかして、人を助けたいと思った。

成果と課題

【成果】

- 事前学習として、まずは映像や実物を見せてもらうことで、イメージや目標を持って取り組むことができた。
- 一人ひとりが道具等を使いながら取り組むことで、災害時のことを思いながら、取り組むことができた。

【課題】

・今回は、班によって、受講するプログラムが限られたが、今後は、各班が、より多くのプログラムを経験できるような計画ができればと思える。また、ロープワークの実習時など、より少人数の班単位で受講できれば、生徒一人ひとりが習得しやすいのではと思えた。

新宮高等学校定時制

実施日時	令和５年５月１０日（水）、９月６日（水）、１１月２日（木）、１２月２０日（水）
参加者	生徒２５名、教職員７名、計３２名
実施内容	地震・津波避難訓練、火災避難訓練、地震・津波対策訓練

ねらい

１、防災に関する意識を高める

２、地震発生時やその後の生活における意識の向上

主なプログラム

訓練１　５月１０日（水）

20:30　緊急地震速報訓練放送・机の下等に避難（シェイクアウト）

20:35　担任の指示で避難開始

３棟東側屋上に避難後、整列・担任点呼・教頭に報告

防災担当より講話

訓練２　９月６日(水)

18:00　火災警報発令緊急放送

「これは訓練です。校舎第３棟より出火しました。現在、火災はまだ大きくなっていません。生徒は担任の指示に従って速やかに体育館前に避難してください。」

生徒は担任の誘導で体育館前に避難する。

同時に教頭は新宮消防署に通報訓練。

18:15　消防署職員より講話

18:30　消火器訓練

消火器の使い方の説明後、使用訓練

19:00　火災からの避難ビデオ鑑賞

訓練３　11 月２日(木)

20:30　緊急地震速報訓練放送・机の下等に避難（シェイクアウト）

20:35　担任の指示で避難開始

停電を想定して廊下・ベランダの電灯は消しておく。移動の際、携帯等の電灯機能を利用する旨を伝えておく。

３棟東側屋上に避難後、整列・担任点呼・教頭に報告

視聴覚３教室に移動し、防災に関するビデオ視聴。

訓練４　12 月 20 日(水)

18:00　視聴覚３教室に集合・担任点呼

防災に関するビデオ「その日、そのとき・・・・」を視聴。

18:45　防災の取り組みについての感想文。

概要

１　避難経路及び避難場所の確認のための地震・津波避難訓練。

２　火災発生を想定した避難訓練及び消火訓練。

３　停電を想定した地震・津波避難訓練。

４　防災ビデオ鑑賞及び振り返り。

参加者感想文

・地震が発生したとき、早く逃げることの大切さが今まで以上に知ることができました。判断が遅くなって逃げられなかった人もいるでいつでも逃げることができるように早くから備えておくことが大事だと思いました。(一年女子)

・ビデオを見て、津波の恐ろしさを理解しました。特に避難生活がつらそうでした。理由は、プライベート空間がつくれない、好きなことができない、好きな物が食べられないからです。(一年男子)

・避難指示が出ている中で、荷物を取りに帰るのはやめようと思いました。また、家族と話し合って避難場所は決めておいた方がいいなと思いました。いつ地震が起こっても大丈夫なように家具を固定するなどして対策しておきたいです。(二年女子)

・ビデオを見て、地域との関わりが大事だと思いました。(三年女子)

・今まで防災グッズの用意や避難場所の確認、家族との話し合いなどができていませんでした。今回の映像を見て、災害時に必要な物、自宅ですべき対策などを詳しく知れたため、早速自宅でも学んだことを取り入れたいと思いました。(四年女子)

成果と課題

【成果】

・避難訓練では、想定に応じて概ね迅速に避難することができた。

・ビデオ視聴を通して、地震発生後の津波の怖さ、地震発生に備えての準備の大切さを知ったという意見が多く見られた。

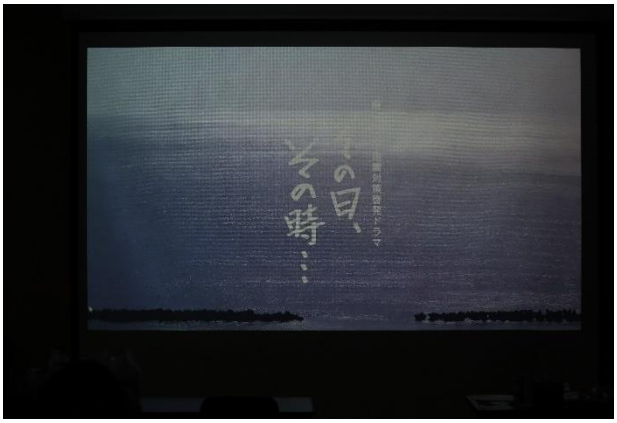
【課題】

・停電を想定した地震・津波避難訓練は、今後も引き続き実施していく必要性を感じる。

・避難後の避難所設営や避難所での高校生としてできる活動や役割などの体験の必要性を感じた。

シェイクアウト

消火訓練



ビデオ視聴

新翔高等学校

実施日時	令和６年２月１６日（金）
参加者	生徒８６名、教職員１２名、地域住民等８名　計１０６名
実施内容	講話（災害に対する心構え）、応急手当・救急法、ロープワーク、ライフハック

ねらい

１　近い将来予想される南海トラフ地震をはじめ、自然災害に備えて本校生徒の防災への意識を高める。

２　地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とし、関係機関と連携をしながら防災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得し、地域防災リーダーの育成を図る。

主なプログラム

１　自衛隊による講話

（１）災害に対する心構え

２　自衛隊による災害時おける防災訓練

（１）応急手当・救急法

（２）ロープワーク

（３）ライフハック

概要

１　１学年８６名、教員１２名、地域住民等８名で災害に対する心構えについて学習する。

２　各クラスで応急手当・救急法、ロープワーク、ライフハックの分野に分かれて自衛隊による防災訓練に参加した。各部門４０分とし、ローテーションで実施した。

参加者感想文

１　応急手当・救急法

（１）止血の方法を学んだ。実際は止血のときには血を見て驚くこともあると思うが、落ち着いて処置したい。

（２）毛布や上着で担架が作れることを学んだ。また、担架で人を運ぶときに、寝ている人の足の方を進行方向として進むことも知ることができた。

２　ロープワーク

（１）自衛隊の方は結ぶのが早くて、自分自身、覚えることができるか不安だったが、丁寧に教えてくれたので、最後には結ぶことができるようになった。

（２）もやい結びと身体もやい、一重継ぎを学んだ。必要時に実践できるように復習する。

３　ライフハック

（１）新聞紙で簡単な食器をつくる方法と、ビニール袋や水を使ってランタンを作る方法を知った。災害が起こったときに慌てずつくることができるよう家でもつくってみたいと思った。

（２）非常食を初めてつくりました。味もおいしく、何より水だけでつくれることに驚いた。

成果と課題

【成果】

今年度も自衛隊の協力を得て、生徒に様々な体験をさせることができた。実際に災害が発生したときの対応について学ぶことができた。また、そのときにどのように行動すべきかを考える機会もあり、「自助・共助」の精神を養うことができた。当日の様子や事後の感想からも、生徒が真剣に取り組んでいたことがわかる。

今回は地域の方も参加し、生徒と地域の方が協力し合うところが見えた。今後も学校・地域が一体となった防災スクールをめざす。

【課題】

実際の災害が起こったときに実践できるかが重要であり、今回学んだことがスキルとして定着できるよう継続した訓練が必要である。来年度は可能な範囲で、地域との連携、そして、継続した訓練を進めていくことを考える。

伊都中央高等学校

実施日時	令和５年９月２２日（金）
参加者	生徒１４０名、教職員３０名、　計１７０名
実施内容	地震体験車、防災ボトル作り、きいちゃんの防災避難ゲーム等

ねらい

１　近い将来予想される南海トラフ大地震を始め、自然災害に備えて高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。

主なプログラム

１　地震体験車「ごりょうくん」で地震体験
２　防災ボトル作り
３　「シンサイミライ学校　いのちを守る特別授業」視聴
４　きいちゃんの防災避難ゲーム
５　非常食（アルファ化米・個包装）の紹介・持ち帰り
５　振り返り、感想記入

概要

１　昼間コースと夜間コースに分かれて実施した。
２　昼間コースが学年単位でそれぞれのプログラムをローテーションを組んで実施した。
３　防災ボトル作りは体育館にて、地震体験車は体育館前にて、きいちゃんの防災避難ゲームは各 HR 教室、DVD 視聴は視聴覚教室にて実施した。

参加者感想文

・今まで災害に対して何も準備をしていなかったけれど、準備をすることが災害に対する心の準備になることが分かった。
・考えて行動しないと、津波の被害も増えて、亡くなる可能性が高くなることが分かった。30 分の間にどれだけ冷静に行動できるかが大切と分かった。
・他人事ではないと思っていたけれど、どこか他人事として思っているところがあったので、考え直さないといけないと思った。
・防災ボトルを持ち歩くようにしようと思った。大きな地震がくると、パニックになると思うので、落ち着いて行動できるようになりたい。
・地震体験車は、本当に地震にあったように感じた。降りた後もまだ地震が起きているような

錯覚になるほどで、怖かった。
- 災害についての知識が身についた。今自分にできることは、事前準備だと思った。今日学んだことを使っていきたい。
- 防災ボトルは詰め方次第で、思っていた以上にたくさん入り、これから持ち歩きたい。
- 避難ゲームをやってみて、選択を間違えるだけで、助かることも助からないこともあることを知った。
- 震度７を体験して怖かったのに、実際に起きたときは、どれだけ恐怖を感じるのか考えた。
- 避難ゲームをして、何も準備をしないで逃げるのと、事前準備をした状態で逃げるのでは、避難所に着くまでの時間が全く違ったので、事前準備の大切さが分かった。これを機に、ハザードマップの確認をしようと思う。

成果と課題

【成果】
- 昨年は天候不良で実施できなかった地震体験車での体験ができた。
- きいちゃんの災害避難ゲームも自分ごととして考え、取り組むことができた。
- 仲間とともに取り組むプログラムが多く、コミュニケーション力を養い、自分と違う意見も尊重する態度を身につけることができた。
- 防災ボトルを作ることで、実際の事前準備を体験でき、防災意識を高めることができた。

【課題】
- 地域の防災課題に取り組むなど、より地域に目を向けた防災活動を検討していきたい。

きのくに青雲高等学校定時制

実施日時	令和５年　９月２７日（水）
参加者	生徒１２０名、教職員４０名、計１６０名
実施内容	避難訓練、防災スクール

ねらい

1. 近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え防災意識を高め、スムーズに行動できるよう避難経路や避難行動を確認する。

2. 地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

１．避難訓練。
２．「防災ハンドブック」「災害の記憶を未来に伝える」等を使った防災教育。

概要

１．地震発生、火災発生による避難を想定した訓練。
２．「防災ハンドブック」「災害の記憶を未来に伝える」等を使って学習。

参加者感想文

- 訓練なので落ち着いて行動できた。
- 日頃から避難経路を確認することの大切さを知った。
- 津波の怖さを再確認した。
- 実際の地震では、うろたえて、うまく行動できない気がする。

成果と課題

【成果】

① 避難訓練や「防災ハンドブック」「災害の記憶を未来に伝える」等を使った防災教育をすることによって、災害についての知識をもち、災害に備える意識を高め、災害から命を守ることの大切さを学ぶことができた。

②校内避難経路の確認をすることができた。

【課題】

① 概ね真面目に取り組んでいたが、訓練であるため、緊迫感のない生徒もいた。緊張感をもった行動を取らせるための工夫が必要である。

②実際に地震等の災害が起こった時に、その場の状況に応じて臨機応変に判断・行動・対応できる能力を養わなければならない。

南紀高等学校

実施日時	令和５年４月２０日（木）～１１月２日（木）
参加者	生徒１０７名、教職員２５名　計１３２名（延べ人数）
実施内容	地震シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所運営ゲーム訓練、救急救命講習、アルファ米作り、映像視聴　等

ねらい

１．実施形態

定時制昼間部、定時制夜間部の課程別にそれぞれの生徒の実態に即した実施形態とするため、特定の日に絞らず、複数回に分散して実施。生徒指導部を中心に担任や関連教科の教員が担当を分担する形式で準備を進めた。

２．使用教材

「きいちゃんの災害避難ゲーム」、防災ハンドブック、世界津波の日パンフレット等

主なプログラム

１．防災点検（夜間定時制）
２．火災避難訓練（昼間定時制）
３．大地震・津波避難訓練（夜間定時制）
４．救急救命講習事前学習（昼間定時制）
５．救急救命講習及び「きいちゃんの災害避難ゲーム」、「きいちゃんの避難所運営ゲーム」（昼間定時制）
６．「きいちゃんの避難所運営ゲーム」（夜間定時制）

概要

１．4月２０日（木）

大地震や津波などの災害が発生した場合に備え、非常用ライトの点検と点灯を行い、実際に非常用ライトの照明のみを頼りに校内を巡りながら、避難場所やAEDの設置場所・防災倉庫の場所の確認を行った。　生徒２２名

２．１０月２日（月）

火災を想定した避難訓練を実施。火災に伴う避難経路の確認を行った。　生徒８０名

３．１０月２日（月）

大地震後の停電と津波を想定し、屋上への避難を実施。夜間定時制の活動時間を踏まえ、暗闇の中を非常用ライトで照らしながらの避難を試みた。　生徒１９名

４．１０月１８日（水）、２５日（水）

田辺市消防本部による救急救命講習の事前学習として、Eラーニングによるビデオ学習及びテストを受講した。　生徒３５名

５．１０月３１日（火）

1年生は、田辺市消防本部による救急救命講習を受講。AEDの使用法、胸部圧迫法、止血法等を学習した。

2年生は、西牟婁振興局からお借りした「きいちゃんの災害避難ゲーム」を用いて、災害避難に関する事前準備の大切さを学ぶ。また、災害時を想定し、アルファ米を水から作成した。

3、４年生は、「きいちゃんの避難所運営ゲーム」を用いて、様々な状況に応じて、どう

避難所を運営していくか、また避難する上でどういうことが重要になるかについて学んだ。また、この学年もアルファ米を作成した。

生徒７５名

６．１１月２日（木）

「きいちゃんの避難所運営ゲーム」を用いて、被災した際に避難所にて直面することになる様々な状況に対して、誰と協力しながら、どのように対応し、その状況をみんなで乗り越えていくのか、自分たちで自分たちのできることを考えながら、避難所運営の方法についてのシミュレーション学習を行った。

生徒１７名

参加者感想文

- 事前準備がないと、死ぬ確率が高いことがよく分かった。
- 事前準備できそうな項目が分かり、帰ってから家の人と話し合おうと思った。
- 救急救命では、人形で実際にすることができてよかった。何かあれば、できることをしようと思った。
- 予測できていないことが多く、時間が足りなかった。
- 食料や水は絶対いると思ったのと、ヘルメットを持っていたことで回避できたのでよかった。家具を固定したことやブレーカーを耐震対策したこと、避難訓練をしたのも大きかったと思う。
- 高いところや避難場所までの道で土砂くずれがおきないかチェックする。なにがおきてもいいように必要な物をかばんに入れたり（食料や水、救急セット、懐中電灯など）、もち出しやすい場所においておく。雨具なども入れておくといいと思った。

成果と課題

【成果】

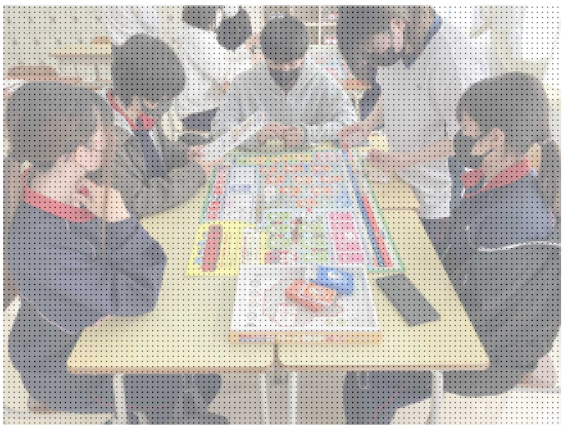
- 地震や津波への対応についてしっかりと考えさせることができた。
- 夜間に発生した地震や津波への対策に再認識し感想を共有することができた。
- 災害時における、事前準備の重要性が認識できた。
- 避難所運営訓練の実施に伴い、避難所としての物品の確認をしたり、実際にアルファ米を作成できてよかった。

【課題】

- 定時制昼間部、定時制夜間部、通信制田辺学級、通信制新宮学級での合同防災学習の機会についても議論されたが、各部課程の時程や登校日の違いから、一斉に実施するのは難しいとなった。
- 在宅中や登下校中における各自の避難経路の認識や避難マップの作成など、具体的で実践的な学習内容の充実を図りたい。
- 避難所運営を体験し、被災後の生活は長くなるため、社会制度や補償制度について深められるような取組を考えていく必要がある。
- 避難所運営は本校生徒には、難易度が高いかと思ったが、きいちゃんの教材が分かりやすく、様々な議論を重ねながら実施できた。
- 以前昼間部で好評であった「ごりょうくんの地震体験」を今年度昼夜間部で計画していたが、日程が合わず実施できなかった。

防災学習の様子

きいちゃんの避難所運営ゲーム



アルファ米作成

きいちゃんの災害避難ゲーム

救急救命講習

紀北支援学校

実施日時	令和５年８月23日（水）、令和６年１月９日（火）
参加者	生徒８４名、教職員３６名　計１２０名
実施内容	避難所体験、簡易トイレ体験、新聞紙スリッパ体験、ロープワーク

ねらい

１　体験学習を通して、防災への知識をつけたり意識を持ったりする。
２　地震が起きたときの危険の理解や具体的な行動についてわかり、自分の意見を話したり他者の意見を聞いたりする。
３　防災グッズの作り方を知る。

主なプログラム

１　避難所体験（段ボールパーテーション、紙皿にラップを敷く練習）
２　新聞紙スリッパ作り、体験
３　簡易トイレ体験
４　ロープワーク
５　防災ビデオの視聴
・動画「震度６体験シミュレーション」をクラスで話し合いながら行う
・「宮城県七ヶ浜町震災復興アニメ」
・「たたかう！防災アニメ　第１話、第２話」

概要

１　避難所体験では段ボールパーテーションを設置し中に入って寝たり食事の場面を想定して座ったりした。紙皿にラップを敷く練習も行った。体育館で寝る時に段ボールを敷いたり、体に新聞紙やアルミシートを巻き付けて防寒対策をする練習も行った。教室から体育館に移動する間はタタメットをかぶり防災リュックを背負って移動した。
２　新聞紙スリッパを作り体育館を歩く練習を行った。
３　簡易トイレに入り、テントのチャックを閉め一人で座ってトイレができるかどうか体験を行った。
４　よく使われるロープの結び方５種類の練習を行った。プリントを見ながら取り組んだり、iPad で動画を見たりしながら結ぶ練習を行った。
５　動画「震度６体験シミュレーション」をクラスで話し合いながらゲームを進めていった。その他防災ビデオの視聴を行った。

参加者感想文

【避難所体験】
・段ボールパーテーションは段ボールだけでここまで住めるようになるんだと思った。
・皆で協力したら設置にも協力できそうだと思った。
・体育館の床で寝るのは冷たいだろうと思った。

【新聞紙スリッパ作り・体験】

・作り方が簡単だったが、歩きづらかった。靴がないよりましだと思った。
・すぐに使えなくなった。
・歩くときはすり足になって歩きにくかった。
・足がすぐ冷たくなった。

【簡易トイレ体験】

・とても狭くてこんなところで実際にトイレができるだろうかと不安に思った。
・音とか気にしてしまうし、生理の時にはどうしたらいいだろうと不安になった。
・簡易トイレは流せないので、匂いが気になると思った。

【ロープワーク】

・とても難しかったが、いろいろな結び方があることがわかり勉強になった。
・難しかったが、練習しておくと使うときに安心だと思った。

【動画「震度６体験シミュレーション」等】
・シュミュレーションをして怖かった。日頃から家で備蓄の用意や避難所への行き方を練習しておく必要があると思った。特に雨の日の行き来の練習は必要だと思った。
・いつおこるかわからないから、どんなときでも備えが必要だと思った。
・家具を固定しないと危ないことがわかった。

成果と課題

【成果】

１月の防災スクールは能登半島地震の直後だったため、テレビで地震の映像や避難所の映像を見た生徒がほとんどであった。

自分達の地域でこんな大地震が起こったら･･･と身近に考えて真剣に取り組む生徒が多かった。また、被害の大きな映像を見た後だったので、不安感に寄り添えるよう配慮した。

ここ数年、段ボールパーテーションや簡易トイレの体験を毎年実施してることから、慣れた様子の生徒が多かった。初めての場面や活動が苦手な生徒が多いため、毎年同じ体験を行うことが慣れにつながっていると感じた。

【課題】

体育館に移動する際にタタメットと防災リュックを背負ったが、パニックになる生徒もいる中、タタメットを広げて被ることが難しいと感じた。日頃教室に置いているが、広げたままでよいと感じた。

実際に災害が起きた時に、教師生徒共に落ち着いて行動に移せるかが課題である。生徒達が学習するだけでなく教師がどのように生徒の安全を守るか、いろいろな場面、いろいろな場所でシミュレーションして考えなければならないと感じた。

この防災スクールだけでなく学校で実施している避難訓練や総合的な探究の時間で取り組んでいる「防災」についての授業で繰り返し指導を行うことで実際に起こるかもしれない災害に備えたいと考える。

たちばな支援学校　高等部

実施日時	令和５年１１月２日（木）
参加者	全校生徒２００名（高等部５９名）、教職員８０名、地域住民等２０名 計３００名
実施内容	防災啓発 DVD 等の上映、地震津波避難訓練、

ねらい

大地震発生直後の適切な行動選択と、その後起こりうる津波等の災害から安全に避難する知識、技能、態度を養う。

主なプログラム

地震津波避難訓練

概要

１　各学年で防災啓発に関わる映像を視聴。

２　全校児童生徒及び、近隣の保育園、老人ホームと合同避難訓練の実施。（校外へ避難）

成果と課題

【成果】

・防災啓発の視聴では、避難方法やマイバックの準備、活用について考えることができた。

・避難場所訓練では、定期的に取り組んでいることもあり、校外の避難場所へ落ち着いてスムーズに移動することができた。

【課題】

・避難訓練だけではなく、防災に関わる様々な取り組みを検討し、より専門的な知識や技術の習得を目指していきたい。

みはま支援学校二学部(小、中、高)

実施日時	令和５年１１月７日（火）
参加者	生徒３６名、教職員２３名　計５９名
実施内容	災害時における身近な物の活用の仕方　等

ねらい

１．災害時に学校や家庭で保管している備蓄バックの中身はどのようなものを入れているか災害時にどのような物が必要なのかを知る。
２．災害時に身近にある物を活用して生活用品として生かしていく方法を知る。

主なプログラム

１．学校に保管している備蓄バックの中身を確認、活用の方法を知り実際に触ってみる。
２．新聞紙を活用しスリッパを作ってみる。

概要

１．災害が起きたらまず自分たちはどのような行動をとったらよいのかを視覚教材で学習する。
２．学校保管の備蓄バックの中身を紹介し実際に触ってみる。
３．新聞紙で自分のスリッパを作ってみる。

参加者感想文

・新聞紙でスリッパを作成した。実際履いてみると意外と歩けたのでおもしろかった。
・新聞紙のスリッパの作成方法を動画等でわかりやすく説明してほしかった。
・他の防災に役立つサバイバル術などあればやってみたい。

成果と課題

【成果】
・備蓄バックの中身は見たことがなかったためどのような物が入っているかどんな時に活用できるかを知ることができた。
・最低限備蓄しておかなければいけない物を知り、生徒が家庭でも備蓄バックが必要であることを話すきっかけ作りができた。
・新聞紙を履き物に活用できることを知り生徒は楽しみながら作成することができた。
・新聞紙の履き物を実際に履いて校内を歩いている生徒もいて活用の方法や課題を考えることができた。
【課題】
・時間の関係で備蓄バックの中身の活用を十分に説明することができなかった。
・新聞紙でスリッパを作る工程を動画等の視覚教材で説明することができなかった。